

令和6年度

農学研究科履修案内

(令和6年度入学者用)

茨城大学大学院農学研究科

※ 開講時期欄のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは、今年度は以下のとおりとなります。

第Ⅰ期	…………	前学期前半	<	4 / 11 (木)	～	6 / 10 (月)	>
第Ⅱ期	…………	前学期後半	<	6 / 11 (火)	～	8 / 6 (火)	>
第Ⅲ期	…………	後学期前半	<	9 / 27 (金)	～	11 / 28 (木)	>
第Ⅳ期	…………	後学期後半	<	11 / 29 (金)	～	2 / 7 (金)	>

※ 曜日講時欄の曜日のあとの数字は講時を表します。

1 講時	:	8 : 40	～	10 : 25
2 講時	:	10 : 35	～	12 : 20
3 講時	:	13 : 10	～	14 : 55
4 講時	:	15 : 05	～	16 : 50
5 講時	:	17 : 00	～	18 : 45

《 参 考 》

茨城大学ホームページ

<https://www.ibaraki.ac.jp/>

農学部ホームページ

<https://www.agr.ibaraki.ac.jp/graduate/>

茨城大学教務情報ポータルシステム (CampusSquare)

<https://csweb.ibaraki.ac.jp/campusweb/>

茨城大学学習支援システム (manaba)

<https://manaba.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学大学院農学研究科ダブルディグリープログラムホームページ

<http://ddp.agr.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムホームページ

<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/gpss/>

茨城大学 情報戦略機構

<https://www.ipc.ibaraki.ac.jp/>

目 次

茨城大学大学院農学研究科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	ii
1. 大学院農学研究科修士課程のコース・モジュール	1
2. カリキュラムの構成	2
3. カリキュラム修了の要件	3
4. 履修登録について	4
5. やむを得ない事情により授業を欠席した場合の取扱いについて	6
6. 期末試験	6
7. 成績評価基準	8
8. GPA (Grade Point Average) 制度 について	9
9. 成績評価に関する異議申立制度	9
10. 修士論文作成に関する手続き	11
11. 学会等における発表報告届の提出について	12
12. 早期修了制度について	13
13. 授業科目	15
14. 教育職員免許について	20
15. サステナビリティ学教育プログラム履修要項	21
16. CoRE (修士課程国際共同指導) プログラム履修要項	23
17. ダブルディグリープログラム履修要項	24
18. 学生生活	26
19. 阿見キャンパス配置図	30
20. 茨城大学大学院農学研究科オフィスアワー (令和6年度)	31
21. 茨城大学大学院農学研究科規程	33
22. 茨城大学科目ナンバリング運用要項	39
様式集	47

茨城大学大学院（修士課程・博士前期課程）の ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

○ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

茨城大学大学院（修士課程・博士前期課程）の教育目標は、21 世紀における社会の激しい変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的な力を育成することである。よって、茨城大学大学院では、以下の 5 つの知識、能力及び姿勢を身に付けることをもって、修士の学位を授与する。

①（専門分野の学力・研究遂行能力）

各専門分野で求められる高度専門職業人としての知識、技能及び自立的に課題を発見・解決しうる研究遂行能力

②（世界の俯瞰的理解）

人間社会とそれを取り巻く自然環境に対する幅広い知識と理解力

③（国際的コミュニケーション能力）

人間社会のグローバル化に対応し、文化的に多様な人々と協働して課題解決をしていくための高度な思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力

④（社会人としての姿勢）

社会の持続的な発展に貢献できる高度専門職業人としての意欲と倫理観、主体性

⑤（地域活性化志向）

茨城県をはじめとして地域の活性化に、専門性を活かして主体的・積極的に取り組む姿勢

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示す教育目標を満たすため、大学院（修士課程・博士前期課程）におけるカリキュラム・ポリシーを以下の 5 項目に示す。

①（教育課程の編成）

ディプロマ・ポリシーで定めた 5 つの知識、能力及び姿勢を育成するため、共通科目と専門科目を含むカリキュラムマップ等に基づく、横断的かつ体系的な教育課程を編成する。

②（課題発見・解決能力の育成）

主体的に課題を発見し、高度専門職業人としての知識、技能及び研究遂行能力を育成するため、研究科の特性を活かした高度な専門科目を配置し、複数教員による研究指導を行う。

③（俯瞰的理解の育成）

大学院教育を限られた専門分野にとどめず、俯瞰的な視野とコミュニケーション能力、創造性と想像力、職業的素養、倫理観を養成するため、全学及び研究科又は専攻単位の共通科目を配置する。

④（地域活性・グローバル化に取り組む姿勢を育成する教育）

共通科目及び専門科目で、それぞれ、幅広い知識と高い専門性を活かして地域志向の視野と国際的な視野を育み社会貢献できる能力を育成する科目を配置する。

⑤（教育の質の保証）

各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行うとともに、各研究科の定める明確な学位論文審査基準及び最終試験実施要項に基づく厳格な学位論文審査及び最終試験結果の評価を行う。単位の実質化と学修成果の可視化を図り、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を推進する。

農学研究科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

農学研究科ディプロマ・ポリシー

茨城大学大学院農学研究科の教育目標は、地域及びグローバル社会の多様な課題に対峙し、農学全般についての高い見識と専門性及び多面的視野をもって、地域社会の活性化や人類の持続的発展に貢献できる実践力を有する高度専門農学系人材を育成することである。そのために、茨城大学農学研究科は、茨城大学大学院が修了生に求める資質に加え、以下の知識、能力及び姿勢を身に付けることをもって、修士(農学)の学位を授与する。

① (専門分野の学力・研究遂行能力)

地球規模の環境変動に適応した食料生産や地域の社会基盤形成に活用ができる高度な農学分野の専門知識と実践技術

② (世界の俯瞰的理解)

多様な文化や価値観の理解に基づきアジアと日本の農業を俯瞰し、21世紀社会の農業の課題に対する包括的な理解

③ (国際的コミュニケーション能力)

多様な文化、社会的背景を持つ人々と協働し、農学の分野から国際的な課題を解決するために必要な判断力、論理的思考力及びコミュニケーション能力

④ (社会人としての姿勢)

農学系高度専門職業人として、高い倫理観と主体性を持って、自然との共生社会の実現に貢献するために主体的に学び続ける姿勢

⑤ (地域活性化志向)

獲得した高度な農学分野の専門知識と実践技術を活かし、地域社会の課題の解決と持続的発展に貢献できる能力

農学研究科カリキュラム・ポリシー

農学研究科はディプロマ・ポリシーで定めた5つの知識、能力及び姿勢を育成するために、1専攻4コースからなる教育課程を編成し、大学院共通科目と専門科目からなる分野横断的かつ体系的な教育を実施する。

① (課題発見・解決能力の育成)

少人数による課題解決型授業により、地域や国際社会における農業や食料に関する課題を発見するとともに、地域と連携したフィールド教育により農学系高度専門職業人としての知識、技能及び研究遂行能力を育成する。

② (俯瞰的理解の育成)

専門分野を越えた他コースの専門科目、あるいはコースの区分によらない学際的な科目や就業力の育成に関する科目から構成される「専攻展開科目」を履修し、専門分野の俯瞰的理解にとどまらず、修了後のキャリアパスをイメージしつつ、社会全般から専門分野を俯瞰する力を育成する。

③ (地域活性・グローバル化に取り組む姿勢を育成する教育)

専門科目により高度な専門性を修得するとともに、研究科共通科目及び専攻展開科目により地域や国際社会で働く上で求められる高い倫理観や職業意識、コミュニケーション力などを育成する。

④ (教育の質保証)

学修時間の確保と各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価により単位の実質化と可視化を図るとともに、明確な学位論文審査基準及び最終試験実施要項に基づく厳格な学位論文審査及び最終試験結果の評価を行う。教職員と学生の相互協力と点検により、変化が著しい農学分野に対応して不断の教育改善を推進する。

【Memo】

A large rectangular area with rounded corners, containing horizontal lines for writing, serving as a memo space. The lines are evenly spaced and cover the entire area, providing a template for handwritten notes.

1. 大学院農学研究科修士課程のコース・モジュール

専攻	コース	モジュール
農学専攻	アジア展開農学コース	Agronomy
		Animal Science
		Plant and Microbial Sciences
		Food and Life Sciences
		Agricultural Engineering
		Rural Economics
	実践農食科学コース	動物科学
		微生物科学
		植物科学
		食品科学
	応用植物科学コース	植物保護科学
		植物生産科学
		植物資源科学
	地域共生コース	農地環境工学
		農林共生社会

- 各コースには、特定の専門分野で構成されるモジュール（授業科目群）が複数設定されています。
- 所属コースに配置されているモジュールから任意の1つを自らの専門分野（コアモジュール）として指定して履修することで、選択した専門領域に関する高いレベルの知識や技術を修得します。

2. カリキュラムの構成

茨城大学大学院は、知識基盤社会の構築を担う高度専門職業人養成と知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人材の育成を目指しています。そのために、専門分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得するとともに、幅広い学識と専門分野に関連する基礎的素養を培うことを目標としています。これらの目標を実現するため、大学院授業科目は次のように構成されています。

(1) 大学院共通科目 (Graduate School Common Subjects)

幅広い学識と俯瞰的視野及び職業的素養などを涵養するための授業科目です。

(2) 研究科共通科目 (Graduate School of Agriculture Common Subjects)

農学系の研究者や技術者としての基盤形成を目的にした授業科目です。アジア農業論、科学リテラシー、英語表現技法の3科目が日本語と英語で開講されます（英語表現技法は英語開講のみ）。

アジア農業論では、特に日本を含むアジア各国の文化や食を含め、今後の農業や食産業の発展のための共通理解を深めます。また、科学リテラシーでは、研究者・技術者として必要な思考力、議論の手法及び倫理観の醸成、英語表現技法では、国際学会等において効果的な研究発表を行うための技術の向上を図ります。

(3) 専攻展開科目 (Applied Subjects)

コースの区分によらない学際的な科目や就業力の育成に関する科目から構成されます。課題発見及び解決力を向上させ、高度専門農学系人材としての総合力を醸成することを目的としています。統計学、統計数学特論、統計解析学特論、インターンシップは日本語で、熱帯農学特論は日本語と英語で、それ以外の科目は英語による授業開講となります。

(4) コアモジュール科目 (Core-module Subjects)

所属コースのモジュール（授業科目群）の中から、自らが専門分野とするコアモジュールを選択し、コアモジュール科目として履修します。

(5) 自コース（他モジュール）科目 (Other-modules Subjects)

所属コースのモジュールで、コアモジュール以外のモジュールの授業科目を履修し、専門領域を補完する知識や技術を修得します。

(6) 他コース科目 (Subjects of Other Courses)

所属コース以外のコースの授業科目が他コース科目となります。

(7) 修士論文関係科目 (Master Thesis Subjects)

専攻研究、特別演習、プレゼンテーション演習の3科目で構成されます。専攻研究は10単位、特別演習は3単位、プレゼンテーション演習は1単位、主指導教員または副指導教員が担当します。いずれの科目も履修登録は、1年次の前学期に行います。

① 専攻研究

専攻研究は、具体的な研究テーマに基づき、研究の進め方、実験データの解釈と問題点の抽出、更なる実験計画の立て方等の修得を目指したものです。専攻研究の開始に当たっては、研究題目と研究計画について、指導教員及び副指導教員と十分

な議論を行ってください。

② 特別演習

専攻研究に係わる研究動向の把握に向けて、最新の学術論文を調査分析し、研究テーマに係わる詳細な専門知識と技術の修得を目指します。

③ プレゼンテーション演習

専攻研究で得られた成果を研究室の報告会や修士論文発表会、学会等で公表するプロセスを通して、研究成果を国内外に発信するための優れたプレゼンテーション技術の修得を目指します。

3. カリキュラム修了の要件

修了の要件は、研究科に2年以上在学し、研究科所定の科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することです。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた学生については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとします。（農学研究科規程第17条）

研究科所定の科目	必要な修得単位数
1) 大学院共通科目	2 以上
2) 研究科共通科目	3
3) コアモジュール科目	4 以上
4) 自コース（他モジュール）科目	3 以上
5) 他コース科目または専攻展開科目	2 以上
6) 修士論文関係科目	1 4
合計	30 以上

※ 本学が教育上有益と認めるとき、他の研究科及び他の大学院で履修した授業科目の単位を15単位を限度に本研究科の修了要件単位数に充てることができます。

その際、本研究科既存の科目に読み替えて認定することを基本としますが、本研究科既存の科目に読替可能な科目が存在しない場合には、修得してきた科目名で認定することとします。他の研究科及び他の大学院の授業科目の履修を希望する学生は、学務グループで事前申告の手続きをしてください。

4. 履修登録について

(1) 履修科目の決定

指導教員と相談のうえ、修了までに履修する予定の科目と履修年度を確認し、「**授業科目履修計画一覧(様式1)**」を作成し、令和6年4月12日(金)(10月入学者は令和6年10月4日〔金〕)までに学務グループに提出してください。

(2) 履修科目の登録

履修登録期間中に教務情報ポータルシステム「CampusSquare」において、履修登録をしてください。履修登録期間後には、「履修登録修正期間」が設けられています。この期間中は、CampusSquare で履修登録内容を修正することができます。登録内容に誤りがないか、必ず確認してください。

修士論文関係科目(専攻研究、特別演習、プレゼンテーション演習)は1年次初めの履修登録期間に登録してください。

【履修登録期間及び修正期間】

履修登録期間は前学期(4月上旬～中旬)、後学期(9月下旬～10月上旬)に約2週間設けられています。また、第Ⅱ期開講科目及び第Ⅳ期開講科目については、別途、履修登録期間が約1週間設けられています。集中授業の履修登録では別途、履修登録期間が設けられる場合があります。

以下は1年次での履修登録期間及び修正期間です。2年次以降の期間については、掲示などで確認してください。

[前学期 (通年科目、学期開講科目、第Ⅰ期開講科目、第Ⅱ期開講科目対象)]

登録期間: 令和6年4月4日(木)～令和6年4月17日(水)

修正期間: 令和6年4月18日(木)～令和6年4月24日(水)

[第Ⅱ期開講科目]

登録期間: 令和6年6月11日(火)～令和6年6月17日(月)

[後学期 (学期開講科目、第Ⅲ期開講科目、第Ⅳ期開講科目対象)]

登録期間: 令和6年9月24日(火)～令和6年10月3日(木)

修正期間: 令和6年10月4日(金)～令和6年10月10日(木)

[第Ⅳ期開講科目]

登録期間: 令和6年11月29日(金)～令和6年12月5日(木)

教務情報ポータルシステム「CampusSquare」に履修登録されていない場合、成績は認められません。履修登録情報は、CampusSquareの「履修時間割」の表示画面で確認してください。

(3) 申請書による履修登録の追加削除について

CampusSquare の上記履修登録期間及び修正期間終了後、追加で履修したい科目又は履修を取り消したい科目がある場合は、「**追加(削除)履修登録申請書**」に必要事項を記入し、以下の期限までに学務グループで申請手続を行ってください(2年次以降の期間については、掲示などで確認してください)。期限を過ぎた場合の申請については、原則、認められませんので、注意してください。なお、集中講義の申請期限については、原則として講義最終日となりますが、講義最終日が土曜日、日曜日又は祝日の場合は、その直前の平日が申請期限となります。

履修登録を取り消す場合、履修取消手続を行わない科目は成績評価の対象となります。履修取消期限経過後にやむを得ない事情(病気、事故等)により履修の登録を取り消したい場合は、学務グループに申し出てください。

[申請書による追加履修登録の申請期間]

第Ⅱ期開講科目、前学期開講科目、通年開講科目： 令和6年4月25日(木)～5月7日(火)

第Ⅳ期開講科目、後学期開講科目： 令和6年10月11日(金)～10月24日(木)

[申請書による削除履修登録の申請期間]

第Ⅰ・Ⅱ期開講科目、前学期開講科目、通年開講科目： 令和6年4月25日(木)～5月7日(火)

第Ⅱ期開講科目、通年開講科目： 令和6年6月18日(火)～7月1日(月)

第Ⅲ・Ⅳ期開講科目、後学期開講科目： 令和6年10月11日(金)～10月24日(木)

第Ⅳ期開講科目： 令和6年12月6日(金)～令和6年12月26日(木)

[履修登録の削除申請期限]

前学期開講科目、第Ⅰ期開講科目 令和6年5月7日(火)

通年開講科目、第Ⅱ期開講科目 令和6年7月1日(月)

後学期開講科目、第Ⅲ期開講科目 令和6年10月24日(木)

第Ⅳ期開講科目 令和6年12月26日(木)

(4) 履修上の注意

① 掲示

大学から学生への通知・連絡事項は、所定の掲示板に掲示されます。掲示を見なかったため必要な手続きを怠り、不利益を被ることのないよう、大学に来た際は毎回学務グループ前の掲示板を必ず見るようにしてください(主な掲示内容:休講、補講、集中授業、呼び出し、その他)。その他の連絡手段として、メールでも各種通知・連絡等がなされる場合がありますので、大学から付与されたメールアドレスについても必ず確認するようにしてください。

なお、休講情報や大学からの連絡事項の一部は、**CampusSquare** からも確認できます。

② 休講

大学行事又は授業担当教員のやむを得ない事由によって授業が行えない場合には、休講とします。また、台風等の自然災害に対して、事故の発生を未然に防止するために、大学が休講措置を講ずることがあります。休講措置に関する情報は、大学ホームページ、**CampusSquare** 及び掲示にてお知らせします。

③ 補講

授業が休講となった場合、別に日時を定めて補講を行います。日時、教室などは掲示等で連絡します。

(5) 履修登録単位数の上限 (CAP制) について

本学では、単位の過剰登録を防ぎ、1単位を修得するために必要な学修時間(45時間)を確保することで単位の実質化を図るとともに、各年次にわたって適切に履修することで学修の質を向上させることを目的に、年間の履修登録単位の上限を設定しています。これをCAP制(キャップ制)といいます。

年間の履修登録上限単位(CAP)は、30単位に設定されています。ただし、修了要件外科目や集中授業は対象から除きます。

なお、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、研究科の定める手続きにより申請することで、30単位を超えて履修登録を認める場合があります(CAP緩和)。

CAP緩和の申請基準等は次のとおりです。

- ・成績基準:申請時点の直近の年間GPA(1年次後学期のみ直前の学期GPA)が3.5以上であること。
- ・履修登録上限単位:年間38単位まで(8単位追加可)

申請手続きについては、掲示等で確認してください。

5. やむを得ない事情により授業を欠席した場合の取扱いについて

授業を欠席する(した)場合

授業を欠席することが事前に分かっている場合は、授業時などに授業担当教員にその旨直接連絡してください。

「やむを得ない事情」により授業を欠席した場合には、願い出を行うことで、補講の受講又は学修課題の機会が与えられることにより、当該授業を出席したと取り扱われます。学生は、「やむを得ない事情」により授業を欠席する場合は、一週間以内に各授業担当教員へその旨を連絡すると共に、学務グループに連絡し根拠資料(原本)を提出してください。また、複写した同根拠資料を各授業担当教員に提出してください。ただし、集中講義など特定の授業において、補講又は学修課題等を課すことが困難な場合には、シラバス等で明示します。

「やむを得ない事情」とは、次のような場合です。

- (1) 学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)第18条に規定する感染症に罹患した場合(注1)(注2)
- (2) 忌引き(注3)
- (3) 裁判員制度
- (4) 公共交通機関の運行停止

これ以外の事情がある場合は、授業担当教員の判断によります。

6. 期末試験

期末試験の受験資格を有する者が、次に掲げる事情により期末試験を受けることができなかった場合は、当該科目の期末試験の翌日から1週間以内に、学務グループに願い出て、事情を証明する書類を提出することで追試験を受けることができます。

- (1) 学校保健安全法施行規則(昭和33年文部省令第18号)第18条に規定する感染症に罹患した場合(注1、注2参照)
- (2) 忌引き(注3参照)
- (3) 裁判員制度
- (4) 公共交通機関の運行停止・遅延
- (5) その他やむを得ない事情があると判断したもの

※(5)「その他」として追試験の対象として判断される場合があります。対象となるかどうかについては事情を確認できる書類により判断するので学務グループに提出してください。なお、例えば入学試験など事前に連絡することが可能な事情については、原則としてその事情が判明した段階で学務グループに事前の連絡をしていなければなりません。

追試験の実施期日は、当該科目の期末試験の翌日から3週間以内を原則とします。(特別な事情がある場合は、当該学期以内とします。ただし、これによりがたい場合には当該学期以降に実施する場合があります。)

(注1)学校保健安全法施行規則18条に規定する感染症

第1種感染症： エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)及び特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症

第2種感染症： インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。)、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する

能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎
 第3種感染症：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、
 急性出血性結膜炎その他の感染症

(注2) 学校保健安全法施行規則19条に規定する出席停止の期間の基準

感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	第1種の感染症にかかった者については、治癒するまで。
第2種	第2種の感染症(結核及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。)にかかった者については、次の期間。ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるときは、この限りでない。
	イ インフルエンザ(特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
	ロ 百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	ハ 麻疹にあつては、解熱した後3日を経過するまで。
	ニ 流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
	ホ 風しんにあつては、発しんが消失するまで。
	ヘ 水痘にあつては、すべての発しんが痂皮化するまで。
	ト 咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後2日を経過するまで。
	チ 新型コロナウイルス感染症にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで。
	リ 結核及び髄膜炎菌性髄膜炎にあつては、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。
第3種	第3種の感染症に罹患した者については、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。

(注3) 学生の親族が死亡した場合で、学生が葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため授業を欠席する場合は、親族に応じ下表の日数欄に掲げる連続する日数(葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあつては、往復に要する日数を加えた日数)の範囲内の期間

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母	3日(学生が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合にあつては7日)
孫	1日
兄弟姉妹	3日

7. 成績評価基準

(1) 授業科目における評点基準

区分	評点基準	評価の内容
A ⁺	90 点以上～100 点以下	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80 点以上～90 点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70 点以上～80 点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60 点以上～70 点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60 点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

- ・評価はC以上が合格で単位が与えられます。Dは不合格で単位は与えられません。
- ・一度修得した単位（成績）は取消することができません。
- ・成績評価を受けるには授業に2／3以上の出席が必要です。
- ・シラバスに記載されている達成目標（ねらい）と成績評価方法（テスト、レポート、発表など）に基づいて担当教員が評価します。

(2) 修士論文における審査基準

「審査基準」

評価基準	合格基準
課題発見及び研究計画設定力	農業・食料・環境の問題点、技術的課題や既往の研究を一定程度理解したうえで課題を設定し、課題解決にむけて適切な研究計画を作成することができる。
データ・情報分析及び考察力	十分な実験や調査によりデータを収集・管理し、論理的整合性をもって分析や考察を行うことができる。
論文執筆及び質疑応答力	修士論文として適切な内容、構成、体裁を備えている。口述試験においては修士論文の内容を的確に説明できる。質疑応答においては、質問の内容を理解し回答ができる。

「審査方法」

本学学位規則に基づき、設置された審査委員会（論文審査願（様式6）により推挙され、決定した主査及び副査による）において提出された修士論文についての審査と最終試験を行い、評価（合否）します。審査委員会は提出された修士論文について、構成、内容等について精査するとともに、口述試験により上記審査基準に基づき審査を行い、合否を決定します。

また、公開の修士論文発表会を開催し、論文を中心とした最終試験を行います。各専攻は審査会の評価の確認を行います。

「研究指導」

- ① 主指導教員は、専攻研究の開始に当たって研究題目と研究計画について学生と十分な議論を行い、さらに副指導教員とも十分な議論を行い、研究指導計画書を作成します。
- ② 主指導教員は、学生に研究指導の方法及び1年間の研究指導計画を説明し、理解させます。
- ③ 主指導教員は、研究指導計画書に沿って研究が進められるように、適切な研究指導を行います。
- ④ 副指導教員は、専攻研究の進捗状況を把握し、主指導教員と連携して適切な指導を行います。

8. GPA (Grade Point Average) 制度 について

本学では、学生自身が、学内での自分の成績の相対的な位置づけを認識し、意欲的に学修を進めていくことができるように GPA 制度を導入しています。

GPA とは、個々の学生の学修時間当たりの学修到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目の GP (Grade Point) に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値 (Average) をいいます。

GPA は、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての「学期 GPA」と在学中の全期間における指標としての「通算 GPA」の二つがあります。不合格となった授業科目を再履修した場合、「通算 GPA」は再履修をした科目の成績に置き換えて再計算されます。

(1) GP の算出

本学では成績評価を 100 点満点で行っており、これを基礎的数値として次の算定式により算出します。

$$GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) / 10$$

※ただし GP=0.5 未満は 0.0 とします。

(2) 学期 GPA と通算 GPA の算出

①学期 GPA

学期 GPA は、各学期における算定基準日（前学期については 8 月末日、後学期については 2 月末日）までに報告された成績を基に、次の式により算定されます。算定基準日後に成績評価の追加又は変更がなされた場合であっても再計算は行われません。

$$\text{学期 GPA} = (\text{当該学期の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{当該学期の履修登録科目の総単位数}$$

②通算 GPA

通算 GPA は、在学中の全期間の成績を基に、次の式により算定されます。成績評価の追加又は変更がなされた場合には再計算が行われます。

$$\text{通算 GPA} = (\text{在学全期間の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} / \text{在学全期間の履修登録科目の総単位数}$$

※①、②とも、計算値は小数第 3 位を四捨五入し、第 2 位までを表示します。

(3) 履修取消期限までに履修の登録を取り消した科目は GPA に算入されません。また、単位認定された科目や修了要件外科目は GPA に算入されません。

(4) 学期 GPA 及び通算 GPA は、教務情報ポータルシステムにより確認できます。

9. 成績評価に関する異議申立制度

(1) 成績評価に関する問合せ

成績評価について疑義のある場合は、学務グループを通じて授業担当教員に問い合わせることとなります。学生からの問合せに対して、授業担当教員は、原則として 10 日以内（土日、祝日を除く。）に説明することとしています。

上記の問合せの期限は、当該授業科目が開講された学期の次の学期開始後 20 日以内（土日、祝日を除く。）です。休学又は留学のため問合せを行うことができない場合は、復学又は帰国後 20 日以内（土日、祝日を除く。）が問合せの期限となります。

ただし、最終年次の問合せの期限については、成績確認可能日から 3 日以内です。当該授業が開講された学期中に成績報告がされていない授業の問合せ期限等については、別途掲示等でお知らせします。

(2) 成績評価に対する異議申立て

上記 (1) の成績評価に関する問合せをした学生は、次の①～③のいずれかに該当する場合に限

り、成績評価に対する異議を申し立てることができます。

- ①授業担当教員の成績評価の誤記入等が疑われる場合
- ②シラバスに記載された到達目標、成績評価基準及び成績の評価方法に照らし、評価に疑義がある場合
- ③授業担当教員の不誠実対応等により上記（１）の期限までに回答がない場合

成績評価に対する異議申立てをする学生は、学務グループに申し出てください。

成績評価に対する異議申立ての期限は、上記（１）の問合せに対する授業担当教員からの説明又は回答を受けた日から 10 日以内（土日、祝日を除く。）です。ただし、③の場合には、上記（１）の問合せをしてから 15 日以内（土日、祝日を除く。）が申立ての期限となります。

成績評価に対する異議申立てがなされた場合、農学研究科教務委員会において学生及び授業担当教員の双方から事情及び意見等を聴取するとともに、根拠資料の提出を求めます。そのうえで、どちらの主張に妥当性があるかを判断します。

10. 修士論文作成に関する手続き

(1) 必須要件

修士論文は指導教員の指導の下、作成していきます。作成の過程で以下の①～④の手続きが修士論文承認及び修士課程修了のために必要となります。全ての手続きに期間や期日が定められていますので、必ずご確認ください。完了していない手続きがあった場合には、修了時期が遅れることとなりますので、ご注意ください。

- ① 「指導教員届（様式2）」を指定期日までに学務グループに提出すること
- ② 指定された期間に所属コース主催の中間発表会にて研究内容の発表を行うこと
- ③ 審査論文と関連書類一式を指定期日までに学務グループに提出すること
- ④ 論文審査に合格し、完成した学位論文を指定期日までに学務グループに提出すること

(2) 関連する書類一覧

修士論文作成過程で必要な手続きに関する書類は以下のとおりです。詳細は、p.47以降の様式集をご確認ください。

様式の名称（太字は提出が必須）	様式の説明
指導教員届（様式2）	修士論文の取り組み開始のため、主指導教員と相談の上、副指導教員2名を決めて届け出る書類
指導教員変更願（様式3）	修士論文の取り組みの過程で指導教員を変更する場合に届け出る書類
研究指導計画書（様式4）	各年次のはじめに、主指導教員が、副指導教員、学生と議論の上、修士論文の作成に向けた研究計画及び指導計画を記載する書類
研究指導経過報告書（様式5）	各年次の終わり（修了予定年次を除く）に、主指導教員が専攻研究計画書に記載された研究計画に鑑みて、研究指導の進捗状況を報告する書類
論文審査願（様式6）	作成した修士論文は審査に合格することで、学位論文として認められる。審査を申請するために提出する書類
論文題目変更願（様式7）	専攻研究計画書、専攻研究経過報告書に記載の題目が変更となった場合に、主指導教員及び副指導教員の承諾を得て、届け出る書類
学会等における発表報告届（様式8）	学会等で発表した内容を報告する書類。審査論文提出以前に提出していなければ、作成が必要となる書類。詳細は「8. 学会等における発表報告届の提出について」を参照
学会等における発表報告一覧（様式9）	修士論文関係科目の「プレゼンテーション演習」で求められる学会等での発表について、「学会等における発表報告届（様式8）」にて報告した発表の一覧を届け出る書類

(3) スケジュール

①指導教員届（様式2）の提出

主指導教員と相談し、副指導教員2名と題目を決めて作成し、令和6年4月19日（金）（10月入学者は令和6年10月11日〔金〕）までに学務グループに提出してください。

②中間発表会での発表

2年次以降に所属コース主催の中間発表会にて専攻研究の経過について発表を行ってください。その後、主指導教員及び副指導教員と十分な議論を行い、主指導教員の所見を得てください。

③審査論文の提出及び審査、学位論文の提出

		3月修了	9月修了
1	審査論文の提出資格	所属専攻に1年以上在学し、修士課程修了見込みの者。	
2	審査論文の提出書類	次の書類を作成の上、提出期限までに学務グループに提出しなければなりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・論文審査願（様式6）1部 ・審査論文 3部（A4サイズの内紙を用いて作成する） ・審査論文要旨 3部（2,000字程度） ・学会等における発表報告一覧（様式9）1部 ・（未提出の場合のみ）学会等における発表報告届（様式8）1報毎に1部 	
	審査論文の提出期限	1月25日 17時00分 （当日が休日の場合は翌日）まで	8月1日 17時00分 （当日が休日の場合は翌日）まで
3	論文題目の変更	研究指導経過報告書（様式5）に記載の研究題目と審査論文題目が異なる場合に、主指導教員及び副指導教員の承諾を得て、変更期限までに論文題目変更届（様式7）を研究科長に届けなければなりません。	
	変更期限	1月25日 17時00分 （当日が休日の場合は翌日）まで	8月1日 17時00分 （当日が休日の場合は翌日）まで
4	修士論文審査会（最終試験）	論文審査願（様式6）で推挙され、承認を受けた主査及び2名の副査により修士論文審査会が構成され、論文が審査されます。 修士論文審査会において行う口頭発表及び質疑応答を最終試験とします。	
5	修士論文発表会	修士論文審査（最終試験）とは別に所属コースが主催する修士論文発表会において口頭発表しなければなりません。	
6	学位論文の提出及び保管	論文審査に合格し、修士論文審査会の指摘事項等に対応して完成した 学位論文1部 を提出期限までに学務グループに提出しなければなりません。 提出された学位論文は茨城大学図書館農学部分館に保管されます。	
	提出期限	学位記授与式の7日前の17時00分まで	

1.1. 学会等における発表報告届の提出について

学会等で発表を行った場合には、その都度、指導教員の確認を得て「**学会等における発表報告届（様式8）**」を作成して学務グループに提出してください。提出に当たっては、発表した大会プログラムあるいは学会が発表を受け付けた文書等の写しを必ず添付してください。

12. 早期修了制度について

早期修了制度とは、在学中に優れた業績をあげた者について、その申請に応じて必要な手続を経ることで、在学期間を短縮して修了ができる制度になります。在学期間1年間での早期修了と1年半での早期修了のいずれかを申請ができます。

◆申請手続

希望する者は指導教員の承認のもと、以下の書類を定められた期限内に農学部学務グループに提出してください。ただし、(1)~(4)の書類は事前に農学部学務グループで受け取ってください。

- (1). 早期修了認定申請書（本学様式）
- (2). 推薦書（本学様式）
- (3). 履歴書（本学様式）
- (4). 研究業績書（本学様式）
- (5). 学術論文（以下ア~ウのいずれか該当するもの）
 - (ア) 公表論文。
 - (イ) 掲載決定論文（掲載決定を証明する書類を含む）。
 - (ウ) 投稿中論文（投稿中であることを証明する書類を含む）。

◆申請期限

以下のとおり、修了希望時期、入学時期によって申請期限が異なりますので、注意して申請してください。

＜1年次終了時（在学期間1年間）での修了希望の場合＞

- 【4月入学者】 ⇒ 入学年度の9月20日
【10月入学者】 ⇒ 入学年度の3月31日

＜2年次半期終了時（在学期間1年半）での修了希望の場合＞

- 【4月入学者】 ⇒ 入学年度の3月31日
【10月入学者】 ⇒ 入学翌年度の9月20日

◆修了認定

申請者は早期修了予定者としての認定を受けた後、早期修了認定の審査を受けることができます。

1. 早期修了予定者としての認定
申請期限内に提出された書類及び研究経過中間発表会に基づき審査されます。
2. 早期修了認定
申請期限内に提出された書類及び修士論文（要旨+本文）に基づき審査されます。なお、申請時に提出した学術論文が「(ウ)投稿中論文」に該当する場合には、改めて公表論文あるいは掲載決定論文を提出してください。また、提出する修士論文については、学術論文として満たすべき要件があるため、注意してください。

◆早期修了認定における学術論文が満たすべき要件

修士論文を構成している研究内容の全部又は一部が、以下に規定する日本国内学術誌あるいは国際学術誌に、筆頭著者の学術論文として掲載又は掲載が決定していることが要件となります。

＜日本国内学術誌について＞

次の(1)(2)のいずれかを満たす学術研究団体が発行するレフェリー制のある学術雑誌であることが必要です。

- (1). 日本学術会議会員推薦委員会による協力学術研究団体に記載された団体で、次に掲げる要件を全て満たす団体。

- ① 名称、目的、事務所、構成員の資格及び代表者について定めがあること。
 - ② 学術研究の向上発達を図るための活動が 3 年を超えて行われていること。
 - ③ 構成員による学術研究の発表又は討論のための集会を年 1 回以上開催していること。
 - ④ 学術研究論文（概要及び抄録を含む）の発表のための刊行物（自然科学分野におけるものにあつては、査読制度又はこれに準ずる制度が設けられているものに限る）を年 1 回以上発行していること。
 - ⑤ 運営及び活動に係る方針を決定する総会又はこれに準ずるものを年 1 回以上開催していること。
 - ⑥ 構成員の資格を特定の地域内に居住し又は勤務している者に限らないこと。
- (2). 日本学術会議会員推薦委員会による協力学術研究団体に記載されていない団体で(1)の①～⑥に掲げる要件を全て満たしていると早期修了審査委員会（本研究科で設置）が判断した団体。

<国際学術誌について>

Clarivate Analytics 社の Journal Citation Reports に記載されている学術雑誌であることが必要です。

13. 授業科目

(1) 大学院共通科目

★非常勤講師

No.	授業科目名	担当教員	単位	開講時期	開講形態
MK101	アカデミックプレゼンテーション	★若松 弘子	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK102	国際コミュニケーション基礎A	田嶋美砂子	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK103	実践国際コミュニケーションA	★フィダルゴ・ジーナ	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK104	アカデミックディスカッション	★若松 弘子	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK105	国際コミュニケーション基礎B	田嶋美砂子	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK106	実践国際コミュニケーションB	★フィダルゴ・ジーナ	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK107	学術情報リテラシー	羽瀬 裕真	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK108	科学と倫理	★湯元昇	2	II	対面または ハイフレックス
MK109	原子科学と倫理	田中 伸厚、他	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK110	バイオテクノロジーと社会	古谷、★安西	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK111	環境情報センシング特論	湊 淳	1	III	オンライン (リアルタイム)
MK112	知的所有権特論	★柳 光雄	1	III	オンライン (リアルタイム)
MK113	Science of Food ~Function, Processing, Safety~ (食品の科学 ~機能、加工、安全~)	白岩、上妻、豊田、長南、宮口、 中村、鈴木、鎗田	1	III・IV	オンライン (リアルタイム)
MK115	国際コミュニケーション基礎A	田嶋美砂子	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK116	国際コミュニケーション基礎B	田嶋美砂子	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK201	地球環境システム論 I	横木、北	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK202	持続社会システム論 I	田村、小寺	1	I	オンライン (リアルタイム)
MK203	人間システム基礎論 II	三輪、郡司	1	II	オンライン (リアルタイム)
MK204	地球環境システム論 II	岡田、★山村	1	III	オンライン (リアルタイム)
MK205	人間システム基礎論 I	伊藤、富江、寺地、笹野	1	III	オンライン (リアルタイム)
MK206	持続社会システム論 II	内田、黒田、伊丹、長澤、北嶋、 ★島田、★高橋	1	III	オンライン (リアルタイム)
MK207	地域サステナビリティ農学概論	小松崎、成澤、★金子	1	III・IV	オンライン (リアルタイム)

(注1) 集中講義等の開講に関する情報は学務グループ前の掲示板に掲示されますので、随時掲示板を確認してください。

(2) 研究科共通科目

★非常勤講師

No.	授業科目名	担当教員	単位	開講時期	開講形態	備考
AMN001	アジア農業論	浅木、小松崎、坂上	1	通年	対面	
AMN002	アジア農業論	浅木、小松崎、坂上	1	IV	対面	英語開講
AMN003	科学リテラシー	長谷川守文、他	1	I	オンライン (リアルタイム)	
AMN004	科学リテラシー	鎗田孝、他	1	III	対面	英語開講
AMN005	英語表現技法	★ドラコス	1	III	対面	

(3) 専攻展開科目

★非常勤講師

No.	授業科目名	担当教員	単位	開講時期	開講形態	備考
AMN011	統計学	庄山紀久子	1	II	対面	
AMN013	キャパシティ・ディベロップメント論	★古市信吾	1	III・IV	対面	英語開講
AMN015	熱帯農業フィールド実習	坂上伸生	1	通年	対面	英語開講
AMN016	地域サステイナビリティ演習	坂上伸生	1	I・II	ハイフレックス	英語開講
AMN017	国内フィールド実習	七夕、小松崎、佐藤、小針	1	通年	対面	英語開講
AMN018	インターンシップ	岡山毅	1	通年	対面	
AMN019	熱帯農学特論	坂上伸生	1	I・II	ハイフレックス	
AMN020	統計数理学特論	庄山紀久子	1	III	対面	
AMN021	統計解析学特論	庄山紀久子	1	IV	対面	

(4) 修士論文関係科目

No.	授業科目名	担当教員	単位	開講時期等	開講形態	備考
AMN031	専攻研究	各教員	10	1・2年 通年	対面	履修登録は1年次前期に行う
AMN032	特別演習	各教員	3	1・2年 通年	対面	履修登録は1年次前期に行う
AMN033	プレゼンテーション演習	各教員	1	1・2年 通年	対面	履修登録は1年次前期に行う

1) アジア展開農学コース

モジュール	No.	専攻科目	担当教員	単位	開講時期				開講形態	教職 対応	備考
					前学期		後学期				
					I	II	III	IV			
Agronomy	AMN101	Advanced Crop Science	浅木、迫田	1		1			対面		
	AMN102	Advanced Horticultural Science	井上、望月	1		1			オンライン (リアルタイム)		
	AMN103	Advanced Plant Breeding	久保山勉	1		1			対面		
	AMN104	Advanced Bioregulation Chemistry	長谷川守文	1				1	対面		
	AMN105	Advanced Plant Protection	北嶋、中島	1			1		対面		
	AMN131	Advanced Lecture on Agronomy I	専攻長	1							
	AMN132	Advanced Lecture on Agronomy II	専攻長	2							
Animal Science	AMN106	Advanced Animal Breeding	大久保武	1			1		対面		
	AMN107	Advanced Animal Nutrition	豊田	1		1			対面		
	AMN108	Advanced Animal Management	安江、小針	1				1	対面		
	AMN109	Advanced Animal Hygiene	上塚	1		1			対面		
	AMN111	Advanced Animal Cell Engineering	金澤卓弥	1				1	オンライン (リアルタイム)		
	AMN143	Advanced Animal Physiology	吉田悠太	1	1				対面		
	AMN133	Advanced Lecture on Animal Science I	専攻長	1							
AMN134	Advanced Lecture on Animal Science II	専攻長	2								
Plant and Microbial Sciences	AMN112	Advanced Plant Biochemistry	朝山、中平	1			1		対面		
	AMN113	Advanced Microbiology	西原宏史	1			1		対面		
	AMN114	Advanced Chemical Ecology	鈴木義人	1		1			対面		
	AMN115	Advanced Microbial Ecology	西澤、成澤	1		1			対面		
	AMN116	Advanced Natural Product Chemistry	戸嶋浩明	1				1	対面		
	AMN135	Advanced Lecture on Plant and Microbial Sciences I	専攻長	1							
	AMN136	Advanced Lecture on Plant and Microbial Sciences II	専攻長	2							
Food and Life Sciences	AMN117	Advanced Food Biochemistry	白岩、長南	1			1		対面		
	AMN118	Advanced Food Processing	宮口右二	1		1			オンライン (リアルタイム)		
	AMN119	Advanced Food Functionality	上妻由章	1		1			オンライン (リアルタイム)		
	AMN120	Advanced Biochemistry	小島俊雄	1				1	対面		
	AMN130	Advanced Food Safety	鎗田、鈴木穂高	1				1	対面		
	AMN137	Advanced Lecture on Food and Life Sciences I	専攻長	1							
	AMN138	Advanced Lecture on Food and Life Sciences II	専攻長	2							
Agricultural Engineering	AMN122	Advanced Soil Physics	坂口 敦	1			1		対面		
	AMN123	Applied Hydrology	前田滋哉	1			1		オンライン (リアルタイム)		
	AMN124	Advanced Biosystems Engineering	岡山、小松崎	1			1		オンライン (リアルタイム)		
	AMN125	Advanced Water Quality Purification	黒田久雄	1		1			対面		
	AMN139	Advanced Lecture on Agricultural Engineering I	専攻長	1							
	AMN140	Advanced Lecture on Agricultural Engineering II	専攻長	2							
Rural Economics	AMN126	Applied Economics	内田、長澤	1			1		対面		
	AMN127	Advanced Agricultural Policy	西川邦夫	1			1		対面		
	AMN128	Advanced Rural Development	伊丹一浩	1		1			対面		
	AMN129	Advanced Geo-informatics	木下嗣基	1		1			対面		
	AMN141	Advanced Lecture on Rural Economics I	専攻長	1							
	AMN142	Advanced Lecture on Rural Economics II	専攻長	2							

2) 実践農食科学コース

★非常勤講師

モジュール	No.	専攻科目	担当教員	単位	開講時期				開講形態	教職 対応	備考
					前学期		後学期				
					I	II	III	IV			
動物科学	AMN201	動物育種学特論	大久保武	1		1			対面	農業	
	AMN204	動物生化学特論	豊田淳	1	1				対面	農業	
	AMN206	動物衛生学特論	上塚浩司	1		1			対面	農業	
	AMN208	放牧生態学特論	安江健	1		1			対面	農業	
	AMN209	動物福祉管理学特論	小針大助	1		1			対面	農業	
	AMN210	動物細胞工学特論	金澤卓弥	1	1				オンライン (リアルタイム)	農業	
	AMN235	動物生体機構学特論	吉田悠太	1	1				対面	農業	
	AMN236	動物科学演習	豊田、外	1	1				対面		
微生物科学	AMN211	食品微生物利用学特論	長南茂	1			1		対面	農業	
	AMN212	遺伝子制御学特論	朝山宗彦	1			1		対面	農業	
	AMN214	応用微生物学特論	西原宏史	1			1		対面	農業	
	AMN215	地圏生態化学特論	西澤智康	1			1		対面	農業	
	AMN216	微生物生態学特論	成澤才彦	1			1		対面	農業	
	AMN231	土壌環境科学特論	坂上伸生	1				1	ハイフレックス		
	AMN234	醸造微生物学特論	鈴木聡	1		1			対面		
植物科学	AMN218	生物化学特論	小島俊雄	1		1			対面	農業	
	AMN219	植物分子遺伝学特論	中平洋一	1	1				対面	農業	
	AMN220	化学生態学特論	鈴木義人	1			1		対面	農業	
	AMN221	天然物化学特論	戸嶋浩明	1		1			対面	農業	
	AMN222	生物制御化学特論	長谷川守文	1				1	対面	農業	
食品科学	AMN223	食品分子機能学特論	上妻由章	1				1	対面	農業	
	AMN224	畜産物科学特論	宮口右二	1			1		オンライン (リアルタイム)	農業	
	AMN225	食品生化学特論	白岩雅和	1			1		対面	農業	
	AMN226	食品機能工学特論	庄司俊彦	1				1	対面		
	AMN227	食品免疫学特論	石川祐子	1				1	対面		
	AMN233	食品安全分析学特論	鎗田孝	1	1				対面		
	AMN237	食品保蔵学特論	中村彰宏	1				1	オンライン (リアルタイム)		
	AMN238	食品衛生学特論	鈴木穂高	1				1	対面		

3) 応用植物科学コース

モジュール	No.	専攻科目	担当教員	単位	開講時期				開講形態	教職 対応	備考
					前学期		後学期				
					I	II	III	IV			
植物保護科学	AMN301	植物病害防除学特論	中島雅己	1				1	対面	農業	
	AMN302	農薬学特論	菊田真吾	1				1	オンライン (リアルタイム)		
	AMN303	応用昆虫学特論	北嶋康樹	1				1	対面	農業	
	AMN304	植物感染機構学特論	古谷綾子	1		1			対面	農業	
植物生産科学	AMN306	栽培学特論	浅木直美	1				1	対面	農業	
	AMN317	作物学特論	迫田翠	1				1	対面		
	AMN308	園芸学特論	井上栄一	1				1	対面	農業	
	AMN309	青果物利用学特論	望月佑哉	1				1	対面		
	AMN310	農業生産技術学特論	佐藤達雄	1		1			オンライン (リアルタイム)	農業	
	AMN311	作物栄養学特論	七夕小百合	1		1			対面	農業	
植物資源科学	AMN312	植物育種学特論	久保山勉	1				1	対面	農業	
	AMN314	植物多様性保全学特論	國府方吾郎	1				1	対面		
	AMN315	資源植物学特論	田中伸幸	1				1	対面		
	AMN316	植物化学適応学特論	村井良徳	1				1	対面		
	AMN318	花き園芸資源学特論	水野貴行	1				1	対面		

4) 地域共生コース

モジュール	No.	専攻科目	担当教員	単位	開講時期				開講形態	教職 対応	備考
					前学期		後学期				
					I	II	III	IV			
農業環境工学	AMN402	農業水利学特論	黒田久雄	1				1	対面	農業	
	AMN403	水理学特論	前田滋哉	1	1				オンライン (オンデマンド)	農業	
	AMN405	土壌物理学特論	坂口敦	1				1	対面	農業	
	AMN407	農地環境工学特論	牧山正男	1		1			対面	農業	
	AMN416	生物生産機械学特論	岡山毅	1	1				オンライン (リアルタイム)	農業	
	AMN421	農作業学特論	小松崎将一	1				1	対面	農業	
	AMN422	景観整備学特論	高瀬唯	1	1				対面		
農林共生社会	AMN409	環境経済学特論	内田晋	1		1			対面	農業	
	AMN412	農業史・環境史特論	伊丹一浩	1				1	対面	農業	
	AMN413	農政学特論	西川邦夫	1	1				対面	農業	
	AMN414	農産物流通特論	未定	1				1	オンライン (リアルタイム)		
	AMN417	空間情報学特論	木下嗣基	1				1	対面	農業	
	AMN419	食料情報学特論	長澤淳	1				1	対面	農業	

14. 教育職員免許について

(1) 高等学校専修免許状（農業）について

本研究科において、修了資格を得た者で、免許教科に応じた「教科及び教科の指導法に関する科目」のうちから24単位以上修得した者は、高等学校専修免許状（農業）を得ることができます。

ただし、専修免許状の授与資格を得ることができる者は、既に当該免許の一種免許状（農業）を授与されている者（授与資格を得ている者を含む）で、※必要科目の単位を59単位以上修得している者に限られます。

※必要科目59単位以上の内訳は、「教科及び教科の指導法に関する科目24単位、教育の基礎的理解に関する科目10単位、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目8単位、教育実践に関する科目5単位、大学が独自に設定する科目12単位」以上となります。

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目の履修について

「教科及び教科の指導法に関する科目」は、「13. 授業科目」の「教職対応」欄を参照してください。「農業」と記載されている授業科目が、高等学校専修免許状（農業）に対応する「教科及び教科の指導法に関する科目」です。「教科及び教科の指導法に関する科目」に指定されている科目以外を修得しても、資格要件の24単位には含まれませんので注意してください。

(3) 教育職員免許状一括申請について

本研究科の修了予定年次に所属している学生に対しては、「教育職員免許状一括申請」（茨城県教育委員会）の受付を行う予定です。詳細は毎年10月～11月頃に掲示しますので、注意してください。

15. サステナビリティ学教育プログラム履修要項

(1)趣旨

環境問題やエネルギー・資源の不足、水・食料の逼迫、人口問題などを解決して、社会の持続可能性（サステナビリティ）をいかに確保するかは、現代の大きな課題になっています。本プログラムは、基盤科目や海外及び国内での現場演習を通して、これらの問題を把握する俯瞰的視点と専門分野の知識をつなぐ分野横断的な勉学の機会を提供します。

(2)授業科目

区分	授業科目	単位	備考	
俯瞰型科目	サステナビリティ学最前線	2	SSC 参加大学共同開講科目 大学院共通教育プログラム科目	
	地球環境システム論Ⅰ	1	大学院共通科目	
	地球環境システム論Ⅱ	1	大学院共通科目	
	持続社会システム論Ⅰ	1	大学院共通科目	
	持続社会システム論Ⅱ	1	大学院共通科目	
	人間システム基礎論Ⅰ	1	大学院共通科目	
	人間システム基礎論Ⅱ	1	大学院共通科目	
	コア科目	国際実践教育演習	2	大学院共通教育プログラム科目
		国内実践教育演習	2	大学院共通教育プログラム科目
		ファシリテーション能力開発演習Ⅰ	1	大学院共通教育プログラム科目
		ファシリテーション能力開発演習Ⅱ	1	大学院共通教育プログラム科目
	専門科目	農学研究科指定科目	1	コアモジュール科目

(3)プログラムの修了要件

基盤科目から3単位以上、コア科目から3単位以上及び専門科目から1単位以上を修得し、計10単位以上修得すること。

(4)履修上の注意事項

- 俯瞰型科目は、全学教育機構及び地球・地域環境共創機構（GLEC）の協力のもとで開講する科目です。
- 上記表のうち、備考欄に「大学院共通科目」とあるものは、本プログラムの科目かつ大学院共通科目として申告できます。「大学院共通教育プログラム科目」とあるものは、本プログラムの科目として申告できます。
- 農学研究科が指定する科目については、所属専門分野の専攻科目とし、本プログラムの科目かつカリキュラム修了の要件に該当する科目として申告できます。
- 国際実践教育演習及び国内実践教育演習の履修に当たっては、「学生教育研究災害

傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入し、担当教員からの指示に従うことが必要です。

- 5) このプログラムの履修を希望する者は、指導教員と相談し了解を得たうえで、サステナビリティ学教育プログラム (GPSS) ホームページ (<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/gpss/>) より履修届を提出してください。
- 6) 所定の修了要件を満たした学生には、茨城大学長名で「茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラム修了認定証」が与えられます。
- 7) 以下の SSC 共同教育プログラムの修了要件を満たした場合、「サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)共同教育プログラム修了認定証」が併せて授与されます。

(SSC 共同教育プログラム修了要件)

プログラムの修了要件は以下をすべて満たすものとする。

- ① 「サステナビリティ学最前線」 (2 単位) を取得すること
- ② (2) 授業科目で指定する「俯瞰型科目(「サステナビリティ学最前線」を除く)」を4 単位以上取得すること
- ③ (2) 授業科目で指定する専門科目と上記①、②をあわせ合計10 単位取得すること

【参考】

(1) サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム: SSC (Sustainability Science Consortium)

SSC は、サステナビリティ・サイエンスの視点に立脚した教育による新しい人材の育成や、企業・行政・一般市民への普及啓発や実践活動の展開を推進支援することを目的として、幅広い活動に取り組む一般社団法人です。「サステナビリティ学最前線」は東京大学、大阪大学、国連大学、茨城大学など SSC 参加大学で共同開講されています。 <http://ssc-g.net/>

(2) 地球・地域環境共創機構: GLEC (Global and Local Environment Co-creation Institute)

GLEC は環境問題の解決を目指し、持続的な環境の共創に関する教育研究や社会連携の機能の強化を図る、茨城大学の教育研究拠点です。GLEC には茨城大学の全学部から教員が参加し、フィールド科学から予測・政策科学を含む総合的な研究を推進するとともに、サステナビリティ学教育プログラムの実施でも中心的な役割を担っています。 <https://www.glec.ibaraki.ac.jp/>

(3) 茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラム(GPSS)ホームページ

本プログラムの趣旨・概要などの他、関係授業科目の開講スケジュール・日程、授業に関する最新情報が入手できます。履修の際には必ず目を通してください。

<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/gpss/>

(4) 茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムに関する問い合わせ先

授業のことも含め、プログラムについての問い合わせは、GLEC 支援室 (glec-edu@ml.ibaraki.ac.jp) までメールにてお送りください。

16. CoRE（修士課程国際共同指導）プログラム履修要項

（1）概要

CoRE（Collaborative Research and Education）プログラムは、共同指導体制のもと当該研究テーマを修士論文研究の一環として取り組むことができるプログラムです。海外研究者による研究指導や協定校における教育研究を通じて、国際社会で活躍するための幅広い知識・技能や国際感覚を修得することができます。

本プログラムの履修を希望する者は、申請前に指導教員及び受入大学指導教員とオンライン三者面談を実施して、共同研究計画を作成し各指導教員の承諾を得たうえで、履修届を提出してください。

（2）プログラムの履修条件

指導教員が CoRE プログラムとして対応可能な国際共同研究を実施しており、CoRE プログラム履修者として当該研究に従事することについて指導教員及び受入大学指導教員の合意が得られていること。

（3）受入大学

インドネシア国：ボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、ウダヤナ大学

（4）プログラムの修了要件

CoRE プログラム履修者として通算 3 学期以上登録し、以下のいずれかの要件を満たしたうえで本研究科所定のカリキュラム修了要件を満たすこと。

- ① 2か月以上の期間、連携大学に留学し、現地で共同指導教員の指導のもと修士論文研究を実施したうえで、指導教員及び共同指導教員と連名で学会発表を行っている（発表言語不問）
- ② 修士論文を英語で執筆し、CoRE プログラムによる共同指導体制で執筆したことを明記する
- ③ 指導教員及び共同指導教員と連名で学術論文（査読付き）を投稿している（執筆言語不問）

（5）履修上の注意事項

- ① 修士論文研究としての指導責任は本学の指導教員が負い、受入大学指導教員は指導補助としての立場で修士論文研究に協力します。
- ② 共同指導体制を確保するため、履修期間中は本学の指導教員及び受入大学指導教員とのミーティング（オンライン含む）を1学期につき2回以上実施し、研究経過について確認するようにしてください（合計3学期以上）。
- ③ 本プログラム履修者は2～5か月（1学期）程度の留学を推奨します。留学先では研究活動や受入大学の授業履修に取り組むようにしてください。
- ④ 留学先で修得した単位は本学の修了要件の一部として認められることがあります。単位認定を希望する場合は、帰国後に留学先の大学が発行した成績証明書及びカリキュラム・授業内容がわかる資料（履修案内やシラバス等）を添えて、農学部学務グループに単位認定願を提出してください。
- ⑤ 本プログラムによる留学に際しては、留学先大学の授業料は免除になります。ただし、渡航費や滞在費等は自己負担となります。
- ⑥ 認定要件を満たした学生は、学位記とともに両大学の研究科長名でプログラム修了証明書（学位論文タイトル、指導教員及び共同指導教員を記載）が交付されます。

17. ダブルディグリープログラム履修要項

(1) 概要

ダブルディグリープログラム履修者は、茨城大学及び海外の大学の大学院修士課程に入学し、両大学院の学位授与要件を満たすことで、それぞれの修士の学位が授与されます。両大学における研究と教育とを通じて、国際社会で活躍するための幅広い知識・技能や国際感覚を修得することを目標としています。

履修者は受入大学におよそ1年間留学し、授業科目の履修と修士論文研究を行います。履修を希望する場合は、4月中に学務グループに履修届及び留学願を提出してください。

(2) プログラムの履修条件

受入先の大学に共同研究に対応できる受入可能な教員がおり、研究環境が整っていること（農学研究科修士課程入学時から主指導教員と相談し、受入大学への入学準備を開始していることが望ましい）。

(3) 2024 年度受入大学

インドネシア国：ボゴール農科大学、ガジャ・マダ大学、ウダヤナ大学

(4) 茨城大学のカリキュラム修了要件

受入大学で履修する科目は、15単位を限度に本学の修了要件に含めることが可能です。本学の修了要件30単位のうち、自由履修区分である2単位分は現地の科目名のまま振り替えることが可能です。その他の科目については、シラバスの相同性を審査したうえで、専攻展開科目又は専攻科目に読み替えられる場合があります。専門分野の組み合わせによっては十分な科目の読み替えができず、修得単位数が多くなる場合があるので、注意してください。

(5) 海外受入大学のカリキュラム修了要件

受入大学の修了の要件は、各大学所定の科目について必要な修得単位数を満たし、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、学位論文の審査及び最終試験に合格することです。受入大学における開講科目の詳細については、プログラムのホームページ等を参照してください。なお、何らかの事情で受入大学での修了が困難となった場合には、茨城大学農学研究科のみを修了することになります。

・ボゴール農科大学

科目区分	修了要件	実際に修得する単位	備考
1) 基礎科目（統計・英語）	6	3	TOEFL等のスコア提出により英語科目が免除された場合
2) 専攻選択科目	10	0	茨城大学から10単位を振替
3) 専攻必修科目	15	11	茨城大学から4単位を振替
4) セミナー・コロキウム	2	2	
5) 修士論文	6	6	学術論文の投稿が条件となる場合があります
合計	36	20	

ボゴール農科大学で履修した科目のうち、最大6単位分を本学の修了要件に含めることが可能です。ただし、少なくとも4単位分は科目の読み替えによる認定が必要です（モジュールの区分に注意すること）。

本学側の履修例(1)：大学院共通科目2単位、研究科共通科目3単位、専攻展開科目2単位、専門科目3単位、セミナー・プレゼン4単位、修士論文研究10単位（ボゴール農科大学で履修する専攻必修科目のうち、4単位分を専門科目として読み替え、2単位分を自由履修科目として振り替える場合）

本学側の履修例（２）：大学院共通科目 2 単位、研究科共通科目 3 単位、専攻展開科目 1 単位、専門科目 2 単位、他コース専門科目 2 単位（自由履修単位分として）、セミナー・プレゼン 4 単位、修士論文研究 1 0 単位（ボゴール農科大学で履修する統計学を専攻展開科目 1 単位として読み替え、専攻必修科目のうち 5 単位分を専門科目として読み替える場合）

・ガジャ・マダ大学

科目区分	修了要件	実際に修得する単位	備考
1) 専攻必修科目	1 7	1 7	
2) 選択必修科目	1 6	6	茨城大学から 1 0 単位を振替
3) プロポーザル	2	2	
4) 修士論文	6	6	
合計	4 1	3 1	

ガジャ・マダ大学で履修した科目のうち、最大 9 単位分を本学の修了要件に含めることが可能です。ただし、少なくとも 7 単位分は科目の読み替えによる認定が必要です（モジュールの区分に注意すること）。

※専攻必修科目は、指定されたものを履修する必要があります。

・ウダヤナ大学

科目区分	修了要件	実際に修得する単位	備考
1) 基礎科目	2	2	TOEFL 等のスコア提出により英語科目が免除された場合
2) 専攻選択科目	8	0	茨城大学から 8 単位を振替
3) 専攻必修科目	2 6	1 2	茨城大学から 1 4 単位を振替
4) セミナー・プロポーザル	4	2	
5) 修士論文	6	6	
合計	4 6	2 0	

ウダヤナ大学で履修した科目のうち、最大 8 単位分を本学の修了要件に含めることが可能です。ただし、少なくとも 6 単位分は科目の読み替えによる認定が必要です（モジュールの区分に注意すること）。

※専攻必修科目は、指定されたものを履修する必要があります。

（６）修士論文の作成

茨城大学及び受入大学の学位を取得するためには、それぞれ内容の異なる 2 つの修士論文を提出します。学位審査は、提出を受けた大学院がそれぞれの論文に対して行います。

なお、本プログラムは大学間の連携に基づく教育プログラムであることに鑑み、研究課題の設定については両大学が取り組む共同研究をベースにしたものとし、両大学に提出する論文には研究としての一貫性があることが望まれます。

（７）最終審査および最終試験

農学研究科での審査及び最終試験の方法は、一般学生と同様です。受入大学の指導教員を副査に加えられる場合があります。

受入大学での審査及び最終試験の方法は、各大学の学位規則に基づき学位審査（主査は受入大学の指導教員）において提出された修士論文についての審査と最終試験を行います。農学研究科の主指導教員が副査として参加する場合があります。

18. 学生生活

(1) 保健室

農学研究科では、健康で快適に学生生活を送れるように、健康相談や健康指導等を農学部管理棟 1F の保健室で常勤の看護師が対応しています。

看護師常駐時間

月～金 8:30～17:15 (昼休み 12:00～13:00)
※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇(年末年始)を除く

● 健康診断

健康診断には、定期健康診断、特殊健康診断があります。

[定期健康診断]

毎年1回、4月に実施します。令和6年度は4月3日(水)、4日(木)に実施しますので必ず全員受診してください。都合で受診できない場合は事前に保健室の看護師にご相談ください。

未受診の場合には、奨学金、実習、就職及びその他の事情で健康診断証明書が必要になった場合でも発行されません。各自の負担により医療機関で受診し、健康診断証明書を発行してもらうことになります。

[特殊健康診断]

毎年1回、11月頃に実施します。該当学生は事前に特殊健康診断申込書で申し込みのうえ、受診してください。有害化学物質(有機溶剤及び特定科学物質等)を扱う学生が対象です。

● 健康診断証明書

奨学金申請、就職試験、受験等により健康診断証明書が必要なときは、学生証(ICカード)を用いて、証明書自動発行機から受けとることができます。証明書自動発行機から発行できないときは、保健室の看護師にご相談ください。

[証明書自動発行機で発行する場合]

稼働時間：8:30～18:00
(時間外、土曜日、日曜日、休日、祝日は稼働しません。)
※パスワードは、入学時に配付されたハガキに記載されたものです。

[保健室で証明書を発行する場合]

保健室で「証明書交付願」に必要な事項を記入し、看護師に提出してください。

※ 代理人へのお渡しはできません。

● 就職に係る健康診断書

就職先から特に指定がないときには、証明書自動発行機から発行された健康診断書を提出できます。

次の場合、自費により医療機関で受診し健康診断書を発行してもらってください。その際は、保健室の看護師にご相談ください。

- ・就職先に提出する健康診断書の記載項目について、定期健康診断の受診項目で不足する場合
- ・就職先への提出期日が、定期健康診断実施日より前の場合

● 診察・検査・応急処置・健康相談・医療機関への紹介

保健室には応急薬品が常備されていますから、軽度の外傷・風邪の初期の場合など、気軽に利用してください。また、近隣の医療機関の案内や紹介も行っています。

学校医の診察が毎月1回ありますので、気になる症状についての診察や解説、日常生活上の注意など、何でもご相談ください。必要に応じて専門医を紹介します。なお、学校医の診察日は掲示、又は保健室で確認してください。その他、必要な場合には、次のような検査ができます。

- 1) 常時行うことができるもの：身体測定・血圧測定・視力検査・体脂肪測定・握力測定
- 2) 医師の指示に基づき行う検査：尿検査・心電図検査

大学内での突然の体調不良やケガが発生した場合は、保健室 (TEL : 029-888-8529 又は 029-888-8522)に連絡してください。

(2) 保険制度

学生が大学生活において、傷害を負った場合等に対処する保険として、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）」及び「学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）」があります。

怪我の状況により、保険金の請求ができますので、保健室の看護師にお問い合わせください。

● 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）

国内外において学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

● 学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）

国内外において学生が正課、学校行事又はその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財産を損壊したことにより被る法律上の損害賠償責任に対処する保険です。

● 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保償範囲を広げた保険です。

付帯学総の加入は学研災加入者に限られます。

(3) 困りごとや悩みごとの相談

学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、いろいろな困りごとや悩みごとについて、学生相談を行っています。

学生支援協力員や学内の関係部局と連携し、様々な援助やサービスを提供しています。

どんなことでも構いません。問題を一人で抱え込まず、気楽に相談してください。もちろん相談内容については、厳しく秘密が守られます。また、相談したことで不合理な取り扱いがなされることは一切ありませんので、安心して相談してください。

[茨大なんでも相談室 阿見分室]

なんでも相談室では、学生のあらゆる相談に応じます。

困っていること、悩んでいることがあれば、どんなことでも相談してください。

相談室で話されたこと、また、利用者のお名前は一切外部には漏れることはありません。

なんでも相談室では、インターカー（相談受付者）が相談内容に応じて、より適切な相談員を紹介いたします。

○相談は次のような方法でできます。

*直接来談：農学部管理棟 1F の保健室又は学生相談室（火・木・金曜日）にいらしてください。

開室時間 8：30～17：00 まで（昼休みは 12：00～13：00）

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇（年末年始）は休み

*電話： 029-888-8528

*手紙： 〒300-0393 稲敷郡阿見町中央 3-21-1

茨城大学農学部「茨大なんでも相談室」阿見分室あて

● 相談は、茨大なんでも相談室、同日立分室、同阿見分室、いずれの場所でも受け付けます。

● 開室時間は、時期により変更することがあります。

※茨大なんでも相談室の詳細については、「何か困っていること悩んでいることありませんか」のパンフレットをご覧ください。

[カウンセラーによるカウンセリング]

学生時代は、活動範囲も広がり自分と向き合う機会が多くあります。友達や先輩、後輩との関係、勉強、恋愛、進路のことなど、色々と気になることが増える時期かも知れません。たとえば、「友人ができない」、「対人関係（異性関係）について悩んでいる」、「大学に行く気がしない」、「何もやる気がしない」、「性格のことで悩んでいる」、「将来や自分の生き方について不安を感じる」、「先輩や教員とトラブルがある」などの悩みや不安があるかも知れません。誰でも、自分が困難な状況の渦に巻き込まれてしまうと、冷静な判断がしづらくなり、どうしたらよいか分からなくなってしまう。

カウンセリングとは、人に話を聞いてもらうことで自分の考えを整理したり、自分で自分の置かれている状況を客観的に理解したり、自分はどうしたらよいか、何ができるか、などを考えられるだけの心のゆとりを取り戻すことです。

カウンセラーとして、臨床心理士が週 2 回カウンセリングをしております。カウンセリングを希望する場合は、まず保健室で予約を取ってください。

精神衛生上及び
健康上の問題全般

カウンセリング（精神科医）：朝田 武（日時は後日掲示でお知らせします）

カウンセリング（臨床心理士）：叶 香代（毎週 月・水曜日 10:00 ～ 17:00）

看護師（保健室常駐の係員）：深谷 美架

※カウンセリングは、予約制です。

(4) ハラスメントの相談

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の防止及びそれらハラスメントに起因する問題が生じた場合に対応するために「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定し、学生等の教育研究環境の維持に努めています。

ハラスメントの被害にあった場合は、一人で悩んだりせず、友人など理解ある人や相談員に相談してください。相談員は、相談者のプライバシーを守り、相談内容については、秘密を厳守します。相談することによって、不利益を被ることは一切ありませんので、安心して相談してください。

	農学専攻
セクシュアル・ハラスメント アカデミック・ハラスメント	相談員は4月以降に掲示等にてお知らせします。
<p>[セクシャル・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職の斡旋や研究指導などを条件に、性的な関係を強要されること <p>[アカデミック・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究意欲をそがれること ・研究成果やアイデアを流用・盗用されること <p>大学ホームページ https://www.ibaraki.ac.jp/education/studentssupport/harassment/ ハラスメント相談窓口 Tel 029-228-8016 ◇ 保健室もハラスメントの相談窓口になっています。 ハラスメントの内容やハラスメント相談の詳細については、上記、大学ホームページをご覧ください。</p>	

(5) 修学及び学生生活上の相談

修学上の問題や学生生活上の相談などがあるときは、指導教員又は下記の委員に相談してください。

[教務委員・学生委員]

相談内容	農学専攻
修学上の問題全般 (教務委員)	相談員は4月以降に掲示等にてお知らせします。
学生生活全般 (学生委員)	
<p>【修学上の問題の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の履修方法(単位のとり方、時間割の組み方等)がわからない。 ○授業が理解できない、ついていけない。 ○研究が進まない。 ○教員免許などの資格のとり方がわからない。 ○留学の仕方がわからない。 ○研究科・専攻が自分に合わないのので、進路を再考したい。 ○他の大学院・大学を受験したい。 <p>【学生生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学に行きたくない。留年、休学したい。 ○交通事故にあった、交通事故を起こした。 ○就職活動で困っている。 ○入学料、授業料の免除、奨学金の受け方がわからない。 ○先輩や教員とトラブルがある。 	

[修学支援]

学生生活を送る中で、人間関係・学修・修学・就職活動上の「問題」や「困難さ」に一緒に向き合っ、サポートする修学支援員がいます。修学支援員は「問題」や「困難さ」を整理し、解決のための道筋や、実行に移すための方法を考え、その実行そのものをサポートします。

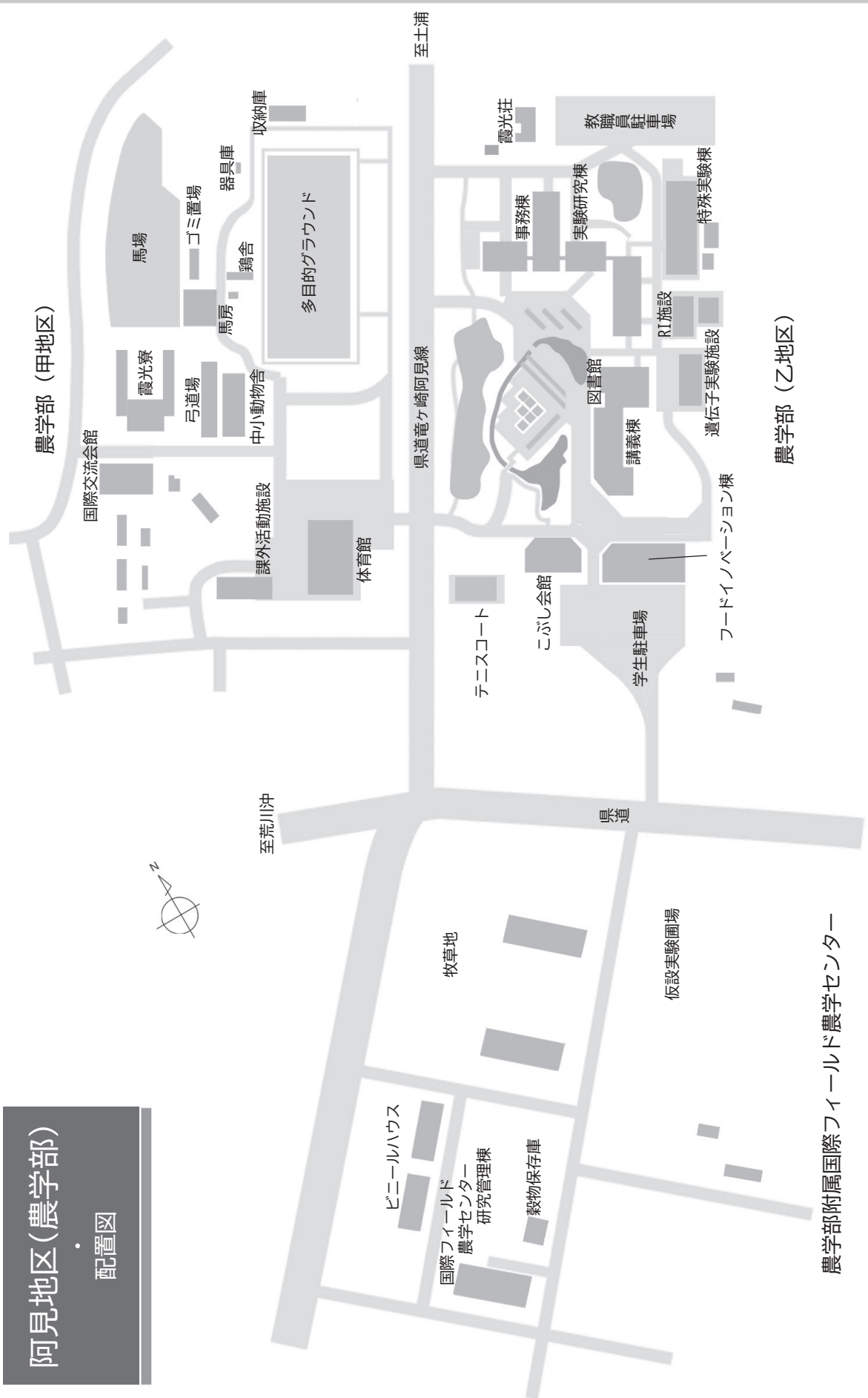
例えば、「自分の言いたいことを上手く伝えられない」「相手の言いたいことがよく分からない」などコミュニケーションで困っている、「集中力が続かず、課題がこなせない」「レポートの書き方がわからない」などの学修について問題があるときにも支援をしていきます。

また、本人からだけでなく、教職員や保護者、友人や知人からの要請も支援の出発点としていますので、周りに困っている方がいるときにも、修学支援員に相談してください。

修学支援	<p>相談時間：毎週 火・木・金曜日 10:00 ～ 16:00</p> <p>※修学支援相談員については、別途掲示等でお知らせします。</p> <p>場 所：学生相談室(保健室隣)</p> <p>相談方法：修学支援員在籍中の時間に学生相談室にいらしてください。</p> <p>その他の時間や、相談中の場合は保健室で予約を取ってください。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

阿見地区(農学部)

配置図



農学部附属国際ファイールド農学センター

20. 茨城大学大学院農学研究科 オフィスアワー(令和6年度)

学生からの質問・相談等に応じるため、教員はそれぞれの研究室で待機しています。
 この待機している時間を「オフィスアワー」と呼んでいます。
 これ以外の時間にも都合の許す範囲で対応します。また、メールでの質問・相談等はいつでも歓迎します。
 電話をする場合は、次のとおりダイヤルしてください。

外線電話を利用する場合：029-888-(4桁の内線電話番号)

領域	コース	教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
						前学期		後学期	
食 生 命 科 学 領 域	実 践 農 食 科 学 コ ー ス	朝山 宗彦	611	munehiko.asayama.777@vc.ibaraki.ac.jp	8651	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		上塚 浩司	520	koji.ketsuka.k9@vc.ibaraki.ac.jp	8539	月	17:00 - 18:45	月	17:00 - 18:45
		大久保 武	620	takeshi.ohkubo.0533@vc.ibaraki.ac.jp	8656	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		金澤 卓弥	619	takuya.kanazawa.omm@vc.ibaraki.ac.jp	8655	火	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		上妻 由章	413	yoshiaki.kouzuma.98@vc.ibaraki.ac.jp	8682	水	12:00 - 14:00	水	12:00 - 14:00
		小島 俊雄	409	toshio.kojima.1@vc.ibaraki.ac.jp	8673	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
		小針 大助	iFC 205	daisuke.kohari.abw@vc.ibaraki.ac.jp	8705	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		坂上 伸生	212	nobuo.sakagami.soil@vc.ibaraki.ac.jp	8687	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		白岩 雅和	410	masakazu.shiraiwa.0701@vc.ibaraki.ac.jp	8680	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		鈴木 穂高	522	hodaka.suzuki.food@vc.ibaraki.ac.jp	8572	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
		鈴木 義人	208	yoshihito.suzuki.chemeco@vc.ibaraki.ac.jp	8668	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
		長南 茂	309	shigeru.chohnan.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8672	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		戸嶋 浩明	107	hiroaki.toshima.spb540@vc.ibaraki.ac.jp	8662	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		豊田 淳	624	atsushi.toyoda.0516@vc.ibaraki.ac.jp	8584	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		中平 洋一	610	yoichi.nakahira.41@vc.ibaraki.ac.jp	8652	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		中村 彰宏	FI 306	akihiro.nakamura.daru@vc.ibaraki.ac.jp	8683	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
		成澤 才彦	417	kazuhiko.narisawa.kkm@vc.ibaraki.ac.jp	8667	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
		西澤 智康	207	tomoyasu.nishizawa.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8684	火	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10
		西原 宏史	307	hirofumi.nishihara.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8685	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		長谷川 守文	108	morifumi.hasegawa.1@vc.ibaraki.ac.jp	8660	月～金	18:45 - 19:45	月～金	18:45 - 19:45
宮口 右二	FI 307	yuji.miyaguchi.meat@vc.ibaraki.ac.jp	8580	木	11:00 - 13:00	木	11:00 - 13:00		
安江 健	516	takeshi.yasue.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8576	水	12:20 - 13:10	火	12:20 - 13:10		
鎗田 孝	623	takashi.yarita.fsa@vc.ibaraki.ac.jp	8681	木	11:50 - 12:40	木	11:50 - 12:40		
吉田 悠太	517	yuta.yoshida.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8573	木	15:05 - 16:50	木	15:05 - 16:50		

※ FIはフードイノベーション棟を示す。

※ iFCは附属国際フィールド農学センターを示す。

連携大学院客員教員 ※各種相談・連絡については、電子メール又は電話を利用してください。

所属等	住所	教員	メールアドレス	研究室電話番号
(独)国立科学博物館 植物研究部	〒305-0005 つくば市 天久保 4-1-1	村井 良徳	murai@kahaku.go.jp	029(853)8459
		田中 伸幸	nobuyuki_tanaka@kahaku.go.jp	029(853)8979
		國府方 吾郎	gkokubu@kahaku.go.jp	029(853)8423
		水野 貴行	tmizuno@kahaku.go.jp	029(853)8434
(国研)農業・食品産 業技術総合研究機構 食品研究部門	〒305-8642 つくば市 観音台 2-1-12	庄司 俊彦	tshoji@affrc.go.jp	029(838)8041
		石川 祐子	yuko@affrc.go.jp	029(838)8055
		鈴木 聡	satosuz@affrc.go.jp	029(838)8077

領域	教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間				
					前学期		後学期		
地域 総合 農学 領域	応用植物科学コース	浅木直美	315	naomi.asagi.h@vc.ibaraki.ac.jp	8552	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
		井上栄一	316	eiichi.inoue.a@vc.ibaraki.ac.jp	8553	木	15:00 - 17:00	木	15:00 - 17:00
		菊田真吾	421	shingo.kikuta.pes@vc.ibaraki.ac.jp	8561	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		北嶋康樹	422	yasuki.kitashima.kanabun@vc.ibaraki.ac.jp	8559	火	12:20 - 13:10	木	10:35 - 12:20
		久保山勉	509	tsutomu.kuboyama.a@vc.ibaraki.ac.jp	8643	火	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
		迫田翠	314	midori.sakoda.uh46@vc.ibaraki.ac.jp	8551	金	12:20 - 13:10	金	12:20 - 13:10
		佐藤達雄	iFC 204	tatsuo.sato.strawberry@vc.ibaraki.ac.jp	8704	月	10:35 - 12:20	月	10:35 - 12:20
		七夕小百合	iFC 206	sayuri.tanabata.i@vc.ibaraki.ac.jp	8706	月	-	月	-
		中島雅己	427	masami.nakajima.pp@vc.ibaraki.ac.jp	8563	月	15:00 - 16:00	月	15:00 - 16:00
		古谷綾子	GRC 406	ayako.furutani.asano@vc.ibaraki.ac.jp	8756	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
	望月佑哉	317	yuya.mochizuki.fuji@vc.ibaraki.ac.jp	8554	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10	
	地域共生コース	池田真也	729	shinya.ikedazabu@vc.ibaraki.ac.jp	8617	火	12:30 - 13:30	火	12:30 - 13:30
		伊丹一浩	723	kazuhiro.itami.ano@vc.ibaraki.ac.jp	8630	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
		内田晋	722	susumu.uchida.envr@vc.ibaraki.ac.jp	8632	金	17:00 - 18:45	金	17:00 - 18:45
		岡山毅	502	tsuyoshi.okayama.3@vc.ibaraki.ac.jp	8592	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10
		木下嗣基	730	tsuguki.kinoshita.00@vc.ibaraki.ac.jp	8635	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55
		黒田久雄	232	hisao.kuroda.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8602	木	17:00 - 18:45	木	17:00 - 18:45
		小松崎将一	iFC 207	masakazu.komatsuzaki.fsc@vc.ibaraki.ac.jp	8707	月	12:20 - 13:10	月	12:20 - 13:10
		坂口敦	229	atsushi.sakaguchi.pd52@vc.ibaraki.ac.jp	8591	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55
		庄山紀久子	609	kikuko.shoyama.sx68@vc.ibaraki.ac.jp	8697	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10
高瀬唯		125	yui.takase.landscape@vc.ibaraki.ac.jp	8631	火	13:10 - 14:55	火	13:10 - 14:55	
長澤淳	728	jun.nagasawa.wolf@vc.ibaraki.ac.jp	8638	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10		
西川邦夫	724	kunio.nishikawa.agri@vc.ibaraki.ac.jp	8615	木	12:20 - 13:10	木	12:20 - 13:10		
福与徳文	725	narufumi.fukuyo.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8616	水	13:10 - 14:55	水	13:10 - 14:55		
前田滋哉	231	shigeya.maeda.15@vc.ibaraki.ac.jp	8601	金	16:20 - 17:30	金	16:20 - 17:30		
牧山正男	227	masao.makiyama.0530@vc.ibaraki.ac.jp	8597	水	-	水	-		
林暁嵐	233	xiaolan.lin.eh59@vc.ibaraki.ac.jp	8600	水	12:20 - 13:10	水	12:20 - 13:10		

※ iFCは附属国際フィールド農学センターを示す。

※ GRCは遺伝子実験施設を示す。

(農学部学務グループ)

029(888)8522

2 1. 茨城大学大学院農学研究科規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人茨城大学組織規則第20条第4項並びに茨城大学大学院学則第4条第2項及び第13条第3項の規定に基づき、茨城大学大学院農学研究科(以下「研究科」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究科は、地域・国際社会で自立的に問題解決ができる力を持った農学系高度専門人材の育成を理念として掲げ、国内外の農業を俯瞰し、地球規模の環境変動に適応した持続的食料生産に係る高度な専門知識と技術を醸成するとともに、異文化、異分野の動向を的確に判断し、深い洞察力をもって、農業と環境に関する課題を発見・解決できる力を涵養する教育研究を行うことを目的とする。

(構成)

第3条 研究科の専攻に次のコースを置く。

農学専攻

アジア展開農学コース

実践農食科学コース

農業生産科学コース

地域共生コース

(指導教員)

第4条 学生の履修を指導するために指導教員を置く。

(単位の計算方法)

第4条の2 大学院学則第15条の2の規定に基づき、研究科が開設する授業科目の1単位当たりの授業時間は、次の各号に掲げる授業方法に応じて、当該各号の時間によるものとする。

(1) 講義及び演習 15時間

(2) 実験、実習及び実技 30時間

2 前項の規定にかかわらず、必要があると認める場合には、研究科が開設する個別の授業科目について、大学院学則第15条の2の規定により準用する茨城大学学則第32条第1項に規定する時間の範囲内で、1単位当たりの授業時間を別に定めることができる。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第5条 研究科共通科目及び専攻科目の授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

2 履修方法は、別表備考欄の定めるところによるものとする。

(履修科目の登録)

第6条 学生は、履修しようとする授業科目を毎学期の始めに、研究科長に届け出なければならない。

(教育プログラム)

第7条 削除

(教育方法の特例)

第8条 教育上特別の必要があると認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に授業又は研究指導を行うことができる。

(試験及び単位の認定)

第9条 授業科目の単位の認定は、試験、その他の方法により行う。

2 病気等やむを得ない事情で期末試験を受験できなかった者に対しては、願い出により追試験を認めることができる。

(他の研究科又は他の大学院の授業科目の履修等)

第10条 学生は、指導教員が必要と認めるときは、他の研究科の授業科目を当該研究科長の許可を得て、履修することができる。

2 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院の授業科目を当該大学院の許可を得て履修することができる。この場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院との間において必要な事項について、協議しなければならない。

3 前2項の規定により修得した単位は、15単位を限度に専攻の修了要件となる単位に認めることができる。

(他の大学院又は研究所等における研究指導)

第11条 学生は、研究科長の許可を得て、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の場合において、研究科長は、あらかじめ当該大学院又は研究所等との間において必要な事項について、協議しなければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

第12条 研究科長が教育上有益と認めるときは、学生が研究科に入学する前に研究科又は他の大学院において修得した単位を、研究科入学後の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位は、転入学及び再入学の場合を除き、研究科において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとする。

3 前2項に規定するもののほか、入学前の既修得単位等の認定に関する手続等は別に定める。

(長期履修学生)

第13条 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、茨城大学大学院長期履修学生規程の定めるところにより、長期履修学生として許可することがある。

2 前項に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別に定める。

(成績評価)

第14条 授業科目の試験又は研究報告書等の成績評価は、100点をもって満点とし、A+(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)及びD(60点未満)の評語で表し、A+、A、B及びCを合格とする。

(学位論文の提出及び審査)

第15条 学位論文は、指定された期間までに主指導教員の承諾を得て、研究科長に提出しなければならない。

2 学位論文の審査については、茨城大学学位規則の定めるところによる。

(最終試験)

第16条 最終試験については、茨城大学学位規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第17条 修了の要件は、研究科に2年以上在学し、研究科所定の科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

(雑則)

第18条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、研究科委員会が定める。

別表第1(第5条関係)

研究科共通科目

授業科目	単位数
アジア農業論	1
科学リテラシー	1
英語表現技法	1

専攻科目

専攻展開科目

授業科目	単位数
統計学	1
キャパシティ・ディベロップメント論	1
熱帯農業フィールド実習	1
地域サステイナビリティ演習	1
国内フィールド実習	1
インターンシップ	1
熱帯農学特論	1
統計数理学特論	1
統計解析学特論	1

コース共通専攻科目

授業科目	単位数
プレゼンテーション演習	1
特別演習	3
専攻研究	10

アジア展開農学コース専門科目

授業科目	単位数
Advanced Crop Science	1
Advanced Horticultural Science	1
Advanced Plant Breeding	1
Advanced Bioregulation Chemistry	1
Advanced Plant Protection	1
Advanced Lecture on Agronomy I	1
Advanced Lecture on Agronomy II	1
Advanced Animal Breeding	1
Advanced Animal Nutrition	1
Advanced Animal Management	1
Advanced Animal Hygiene	1
Advanced Animal Cell Engineering	1
Advanced Animal Physiology	1
Advanced Lecture on Animal Science I	1
Advanced Lecture on Animal Science II	1
Advanced Plant Biochemistry	1
Advanced Microbiology	1
Advanced Chemical Ecology	1
Advanced Microbial Ecology	1

Advanced Natural Product Chemistry	1
Advanced Lecture on Plant and Microbial Sciences I	1
Advanced Lecture on Plant and Microbial Sciences II	1
Advanced Food Biochemistry	1
Advanced Food Processing	1
Advanced Food Functionality	1
Advanced Biochemistry	1
Advanced Food Safety	1
Advanced Lecture on Food and Life Sciences I	1
Advanced Lecture on Food and Life Sciences II	1
Advanced Soil Physics	1
Applied Hydrology	1
Advanced Biosystems Engineering	1
Advanced Water Quality Purification	1
Advanced Lecture on Agricultural Engineering I	1
Advanced Lecture on Agricultural Engineering II	1
Applied Economics	1
Advanced Agricultural Policy	1
Advanced Rural Development	1
Advanced Geo-informatics	1
Advanced Lecture on Rural Economics I	1
Advanced Lecture on Rural Economics II	1

実践農食科学コース専門科目

授業科目	単位数
動物育種学特論	1
動物生化学特論	1
動物衛生学特論	1
放牧生態学特論	1
動物福祉管理学特論	1
動物細胞工学特論	1
動物生体機構学特論	1
動物科学演習	1
食品微生物利用学特論	1
遺伝子制御学特論	1
応用微生物学特論	1
地圏生態化学特論	1
微生物生態学特論	1
土壤環境科学特論	1
醸造微生物学特論	1
生物化学特論	1
植物分子遺伝学特論	1
化学生態学特論	1
天然物化学特論	1
生物制御化学特論	1

食品分子機能学特論	1
畜産物科学特論	1
食品生化学特論	1
※食品機能工学特論	1
※食品免疫学特論	1
食品保蔵学特論	1
食品安全分析学特論	1
食品衛生学特論	1

応用植物科学コース専門科目

授業科目	単位数
植物病害防除学特論	1
農薬学特論	1
応用昆虫学特論	1
植物感染機構学特論	1
栽培学特論	1
作物学特論	1
園芸学特論	1
青果物利用学特論	1
農業生産技術学特論	1
作物栄養学特論	1
植物育種学特論	1
※植物多様性保全学特論	1
※資源植物学特論	1
※植物化学適応学特論	1
※花き園芸資源学特論	1

地域共生コース専門科目

授業科目	単位数
農業水利学特論	1
水理学特論	1
土壌物理学特論	1
農地環境工学特論	1
環境経済学特論	1
農業史・環境史特論	1
農政学特論	1
農産物流通特論	1
生物生産機械学特論	1
空間情報学特論	1
食料情報学特論	1
農作業学特論	1
景観整備学特論	1

備考(履修方法)

- 1 アジア展開農学コース所属学生は、研究科共通科目のアジア農業論、科学リテラシー及び英語表現技法の計3単位並びにコース共通専攻科目のプレゼンテーション演習1単位、特別演習3単位及び専攻研究10単位を必修とし、

大学院共通科目から2単位以上、自コース専門科目の専門分野から4単位以上及び他の専門分野又は専攻展開科目から5単位以上の合計30単位以上を履修すること。

2 実践農食科学コース、応用植物科学コース、地域共生コース所属学生は、研究科共通科目のアジア農業論、科学リテラシー及び英語表現技法の計3単位並びにコース共通専攻科目のプレゼンテーション演習1単位、特別演習3単位及び専攻研究10単位を必修とし、大学院共通科目から2単位以上、自コース専門科目から7単位以上(コース内の専門分野から4単位以上及び他の専門分野から3単位以上を履修すること。)及び他コース専門科目又は専攻展開科目から2単位以上の合計30単位以上を履修すること。

3 ※印は、連携大学院方式による授業科目である。

2.2. 茨城大学科目ナンバリング運用要項

(目的)

第1 この要項は、教育課程の体系や履修の順序等を学生に示すとともに、教育課程を適切に構築するため科目ナンバリングの運用に関して必要な事項を定める。

(科目ナンバリングの構成)

第2 科目ナンバリングは、次の各号に掲げるコードによって構成する。授業科目（基盤教育科目においては授業題目と読み替える。以下同じ。）には、第1号から第3号に掲げるすべてのコードを付すこととする。第4号に掲げるコードについては、当該授業科目が教育プログラムを構成する場合に付すこととする。

(1) 部局コード

部局コードは、授業科目を実施する部局（以下「各学部等」という。）を示すものとし、そのコードは次のとおりとする。

- ・全学教育機構（基盤教育科目） KB
- ・全学教育機構（全学共通科目） KZ
- ・全学教育機構（大学院共通科目） KM
- ・人文社会科学部・人文社会科学研究科（人文学部・人文科学研究科） L
- ・教育学部・教育学研究科 P
- ・理学部 S
- ・工学部 T
- ・農学部・農学研究科 A
- ・理工学研究科 N
- ・地域未来共創学環 R

(2) 学問分野コード

学問分野コードは、当該授業科目の学問分野を示すものとし、そのコードは別表1のとおりとする。当該授業科目が複数の学問分野にまたがるときは、主たる学問分野を示すコードを付すこととする。

(3) 難易度コード

難易度コードは、各学問分野における当該授業科目の難易度を示すものとし、次のとおり対象年次や科目区分に従ってコードを付すこととする。

コード	難易度の基準	備考	
学部	1	1年次から履修可能な科目	基盤教育科目は「1」が原則
	2	2年次から履修可能な科目	
	3	3年次から履修可能な科目	
	4	4年次から履修可能な科目	
	5	卒業論文、卒業研究、卒業制作等	
大学院	6	修士課程及び博士前期課程：大学院共通科目及び研究科共通科目 専門職学位課程：共通科目	「5」に該当するものを除く（卒業論文等）
	7	修士課程及び博士前期課程：専攻科目 専門職学位課程：専門科目及び実習科目	
	8	博士後期課程科目	

共通	9	レベル分けが困難な科目	海外留学、インターンシップ等
----	---	-------------	----------------

(4) 教育プログラムコード

教育プログラムコードは、当該授業科目を構成科目とする全学を対象とした教育プログラムを示すものとし、そのコードは別表2のとおりとする。一つの授業科目が複数の教育プログラムの構成科目となる場合は、複数の教育プログラムコードを併記することとする。

(科目ナンバリングの指定)

第3 各学部等は、教育課程の体系や履修の順序等を検討し、各授業科目の各コードを指定する。

(学生への提示方法)

第4 科目ナンバリングは、各学部等の履修案内及びシラバス等に表示することによって学生に提示する。

(シラバスコードとの関係)

第5 シラバスコードは、科目ナンバリングの導入後も授業を管理するための整理番号として維持することとする。

(教務情報ポータルシステム上の扱い)

第6 科目ナンバリングは、教務情報ポータルシステムにおいて、授業科目の検索に利用できることとする。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から適用する。なお、教育プログラムコードの先進創生情報学教育研究プログラムについては、平成27年4月1日に遡って適用する。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から適用する。なお、教育プログラムコードの量子線科学プログラムについては、平成28年4月1日に遡って適用する。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和6年4月1日から適用する。

別表1 (第2 (2) 関係)

学問分野	英訳名	コード
情報学	Informatics	INF
情報学基礎/計算基盤	Principles of Informatics	POI
数理情報学	Mathematical informatics	MAI
統計科学	Statistical science	STS
計算機システム	Computer system	CPS
ソフトウェア学	Software Science and Technology	SST
マルチメディア・データベース	Multimedia database	MUD
情報セキュリティ	Information security	IFS
人間情報学	Human informatics	HUI
認知科学	Cognitive science	COS
知覚情報処理	Perceptual information processing	PIP
ヒューマンインタフェース・インタラクション	Human interface and interaction	HII
知能情報学	Intelligence Informatics	INI
ソフトコンピューティング	Soft computing	SFC
情報学フロンティア	Frontiers of informatics	FOI
情報とコンピュータ	Information and Computer Technology	ICT
経営情報技術	Management of Information Technology	MIT
組込みシステム技術	Embedded System Technology	EST
環境解析学	Environmental analyses and evaluation	EAE
環境保全学	Environmental conservation	ENC
リスク科学	Risk Science	RIS
環境創成学	Sustainable and environmental system development	SED
デザイン学	Design science	DES
生活科学	Human life science	HLS
教育工学	Educational technology	EDT
科学社会学・科学技術史	Sociology/History of science and technology	SHS
文化財科学・博物館学	Cultural assets study and museology	CAM
地理学	Geography	GEO
社会・安全システム科学	Social/Safety system science	SSS
人間医工学	Biomedical engineering	BIE
健康・スポーツ科学	Health/Sports science	HSS
子ども学	Childhood science	CHS
生体分子科学	Biomolecular science	BMS
脳科学	Brain sciences	BRS
地域研究	Area studies	ARS
ジェンダー	Gender	GEN
観光学	Tourism Studies	TOS
哲学	Philosophy	PHI
倫理学	Ethics	ETH

芸術学	Art studies	ART
文学	Literature	LIT
漢文学	Chinese Classic	CHC
言語学	Linguistics	LIN
英語	English	ENG
技術英語	Technical English	TEE
ドイツ語	German	GER
フランス語	French	FRE
中国語	Chinese	CHI
朝鮮語	Korean	KOR
スペイン語	Spanish	SPA
ギリシア語	Greek	GRE
日本語	Japanese	JPN
その他の語学	Language	LAN
歴史学	History	HIS
考古学	Archaeology	ARC
人文地理学	Human geography	HUG
文化人類学	Cultural anthropology	CUA
文化研究	Cultural studies	CUS
教育科学	Educational science	EDS
法学	law	LAW
政治学	Politics	POL
経済学	Economics	ECO
経営学	Management	MAN
社会学	Sociology	SOC
心理学	Psychology	PSY
教育学	Education	EDU
コミュニケーション学	Communication	COM
ナノ・マイクロ科学	Nano/Micro science	NMS
応用物理学	Applied physics	APP
光工学	Optical engineering	OPE
量子ビーム科学	Quantum beam science	QBS
量子基礎科学	Fundamental Quantum Science	FQS
計算科学	Computational science	CSC
数学	Mathematics	MAT
代数幾何学	Algebra and geometry	AAG
代数学	Algebra	ALG
幾何学	Geometry	GEM
解析学基礎	Basic analysis	BAA
解析学	Analysis	ANA
応用数学	Applied Mathematics	APM
天文学	Astronomy	AST
物理学	Physics	PHY
数理物理・物性基礎	Mathematical physics/Fundamental	MFP

	condensed matter physics	
地球惑星科学	Earth and planetary science	EPS
地質学	Geology	GEL
プラズマ科学	Plasma science	PLS
地学	Earth science	EAS
基礎化学	Basic chemistry	BAC
複合化学	Applied chemistry	APC
材料化学	Materials chemistry	MAC
化学	Chemistry	CHE
材料力学	Mechanics of Materials	MOM
生産工学	Industrial engineering	INE
生産技術工学	Manufacturing Systems	MAS
設計工学	Design engineering	DEE
機械機能要素	Machine functional elements	MFE
流体工学	Fluid engineering	FLE
熱工学	Thermal engineering	THE
機械力学	Mechanical dynamics	MED
知能機械学	Intelligent mechanics	INM
制御工学/制御・システム工学	Control engineering	COE
電子・電気材料工学	Electric materials	ELM
電子デバイス・電子機器	Electron device	ELD
通信・ネットワーク工学	Communication/Network engineering	CNE
計測工学	Measurement engineering	MEE
土木工学	Civil engineering	CIE
土木材料・施工・建設マネジメント	Civil engineering materials / Construction /Construction management	CCC
構造工学・地震工学・維持管理工学	Structural engineering / Earthquake engineering / Maintenance management engineering	SEM
地盤工学	Geotechnical engineering	GEE
水工学	Hydraulic engineering	HYE
土木計画学・交通工学	Civil engineering project / Traffic engineering	CTE
土木環境システム	Civil and environmental engineering	CEE
建築学	Architecture and building engineering	ABE
建築構造・材料	Building structures / Materials	BSM
建築環境・設備	Architectural environment / Equipment	AEE
都市計画・建築計画	Town planning / Architectural planning	TAP
建築史・意匠	Architectural history / Design	AHD
材料工学	Material engineering	MAE
中性子材料科学	Neutron Materials Science	NEM
プロセス・化学工学	Process/Chemical engineering	PCE
金属加工学	Metal Working	MEW
原子力工学	Nuclear engineering	NUE

エネルギー工学	Energy engineering	ENE
電子回路	Electronic Circuit	ELC
電気回路	Electric Circuit	ECC
電磁気学	Electromagnetic	EMA
コンピュータ応用	Computer Application	COA
電気エネルギー	Electric Energy	ELE
パワーエレクトロニクス	Power Electronics	POE
光・電子デバイス	Optical and Electric device	OED
材料組織・プロセス学	Materials Microstructure & Processing Engineering	MMP
材料強度物性学	Strength of Materials	SOM
電子機能材料学	Materials Science for Electronic and Information Devices	MEI
計算材料学	Computational Materials Science	CMS
情報科学基礎	Principles of Computer and Information Sciences	PCI
コンピュータシステムとネットワーク	Computer Systems and Networks	CSN
情報数学	Mathematics for Computer and Information Sciences	MCI
神経科学	Neuroscience	NEU
実験動物学	Laboratory animal science	LAS
腫瘍学	Oncology	ONC
ゲノム科学	Genome science	GNS
生物資源保全学	Conservation of biological resources	CBR
生物科学	Biological Science	BIS
構造生物学	Structural Biology	STB
基礎生物学	Basic biology	BAB
人類学	Anthropology	ANT
生物学	Biology	BIO
農学基礎科目	Agricultural Basic Subjects	ABS
生産環境農学	Plant production and environmental agriculture	PEA
農芸化学	Agricultural chemistry	AGC
森林圏科学	Forest and forest products science	FFP
水圏応用化学	Applied aquatic science	AAS
社会経済農学	Agricultural science in society and economy	ASE
農業工学	Agro-engineering	AGE
動物生命科学	Animal life science	ALS
境界農学	Boundary agriculture	BOA
木材加工学	Wood Working	WOW
栽培学	Cultivation	CUL
畜産学	Animal Production Science	APS
基礎医学	Basic medicine	BAM

臨床医学	Clinical medicine	CLM
看護学	Basic nursing	BAN
学校保健学	School health	SCH
保健学演習	Public health	PUH
養護実践学	School nurse teacher practice	SNT
調理学実習	Cooking Practicum	COP
食物学	Food Science	FOS
生活経営学	Family Resource Management	FRM
保育学	Child Development	CHD
被服学	Clothing and Textile Science	CTS
住居学	Housing Science	HOS
家庭科教育学	Home Economics Education	HEE
総合・複合分野	Multi	MUL
卒業論文・卒業研究	Graduation thesis	GRT
研究（特別研究等）	Research	RES
実験（特別実験等）	Experiment	EXP
実習（特別実習等）	Practice	PRA
演習・ゼミナール（特別演習、卒業論文関連ゼミナール、卒業研究ゼミナール、基礎演習、主題別ゼミナール等）	Seminars	SMI
インターンシップ	Internship	INT
プレゼンテーション	Presentation	PRE
身体活動	Physical Activities	PHA
健康の科学	Science for Health	SFH
情報処理概論	Introduction to Information Processing	IIP
社会科学入門	Introduction to Social Science	ISS
学際科目・総合科目	Interdisciplinary Studies	INS
茨城学	Ibaraki Studies	IBS
情報リテラシー	Information Literacy	INL
ヒューマニティーズ	Humanities	HUM
パフォーマンス&アート	Performance and Art	PAA
異文化コミュニケーション	Cross-cultural communication	CRC
自然・環境と人間	Nature, the Environment and the human Race	NEH
グローバル化と人間社会	Globalization and Human society	GHS
ライフデザイン	Life Design	LID

別表2（第2（4）関係）

区分	教育プログラム名	コード
プラスIプログラム	グローバルコミュニケーションプログラム	GCP
	地域志向教育プログラム	COE
	サステナビリティ学教育プログラム	SUS
	アントレプレナーシップ教育プログラム	ENT

	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	MDA
	日本語教師養成プログラム	JTP
大学院共通教育プログラム	サステイナビリティ学教育プログラム	SEP

様式集

令和6年度農学研究科入学生用 授業科目履修計画一覧

提出日: 年 月 日

指導教員認印		コース	コアモジュール				学生番号	学生氏名	
		コース	モジュール				AM		
区分	No.	授業科目名	履修年度	開講時期	曜日 講時	単位	担当教員名	指導教員 変更承認印	備考
大学院 共通科目									
研究科 共通科目		科学リテラシー				1			
		アジア農業論				1			
		英語表現技法				1			
修士論文 関係科目	-	専攻研究				10			
	-	特別演習				3			
	-	プレゼンテーション演習				1			
専攻科目	コアモジュール科目								
	自コース(他モジュール科目)								
	専攻展開・他コース科目								
上記以外の科目									

令和6年度農学研究科入学生用 授業科目履修計画一覧

記入例

『農学研究科履修案内』を見ながら、記入してください。

年 月 日

指導教員認印		コース	コアモジュール				学生番号	学生氏名	
		コース	モジュール				AM		
区分	No.	授業科目名	履修年度	開講時期	曜日 講時	単位	担当教員名	指導教員 変更承認印	備考
大学院共通科目	MK110	バイオテクノロジーと社会	2024	I	集中	1	古谷、安西	↑	
	MK206	持続社会システム論Ⅱ	2024	Ⅲ	月1	1	内田、黒田、伊丹、長澤、北嶋		
	MK207	地域サステイナビリティ農学概論	2024	Ⅲ・Ⅳ	集中	1	小松崎、成澤、金子		
研究科共通科目	AMN003	科学リテラシー	2024	I	水1	1	長谷川守文、他		
	AMN001	アジア農業論	2024	通年	水1	1	浅木、小松崎、坂上		
	AMN005	英語表現技法	2024	Ⅲ	水3	1	ドラコス		
修士論文 関係科目		専攻研究	2024 2025	↑		10	宮口右二	【指導教員変更承認印】 履修予定科目の変更が生じた場合は、指導教員の承認印を得た後に、学務グループに提出してください。	
		特別演習	2024 2025			3	宮口右二		
		プレゼンテーション演習	2024 2025			1	宮口右二		
コアモジュール科目									
専攻科目									
自コース(他モジュール科目)									
専攻展開・他コース科目									
上記以外の科目									

【No, 】
履修案内(P.15~P.19)に掲載されているNo.を記入してください。

【開講時期】
第Ⅰ期～第Ⅳ期に分かれています。開講時期の順番
Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ に整理して記入してください。

修士論文関係科目の開講時期及び曜日・講時は、空欄としてください。

*** 注意 ***

○コピーの保管について
履修計画一覧の提出前には、各自コピーを控えておくこと。

○履修すべき授業科目について
専攻研究に従事するために必要な授業科目が何であるか、シラバスをもとに指導教員によく相談すること。

○履修計画の変更の手続
履修計画に変更が生じた場合は、保管しているコピーに変更内容(科目の追加・削除)を記載し、指導教員の承認を得た後、学務グループに提出すること。その際、「提出日」も追記すること。教務情報ポータルシステム(CampusSquare)における履修登録についてもあわせて自身で修正を行うこと。

提出期限（4月入学者）：令和6年4月19日（金）

提出期限（10月入学者）：令和6年10月11日（金）

指 導 教 員 届

年 月 日

茨城大学大学院農学研究科長 殿

届出者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____

研究科在学中の指導教員について、下記のとおり届出します。

記

1. コアモジュール _____
2. 主指導教員名（1名） _____
- 副指導教員名（2名） _____
- _____

※ 指導教員及び副指導教員2名の了承を得てから提出すること

指導教員変更届

茨城大学大学院農学研究科長 殿

届出者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____

指導教員が変更になりましたので、下記のとおり届出します。

記

1. 主指導教員名 変更前： _____ 変更後： _____

2. 副指導教員名 変更前： _____ 変更後： _____

変更前： _____ 変更後： _____

3. 変更年月日及び変更理由

令和 年 月 日

理由 _____

※ 指導教員及び副指導教員2名の了承を得てから提出すること

年 月 日

論 文 審 査 願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

申請者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____ 印

茨城大学学位規則第 6 条の規定により、下記書類を添えて修士論文の審査を申請いたします。

記

1. 論 文 3 編

2. 論文要旨 3 編

論文題目 _____

※審査を希望する主査・副査の了承を得て提出してください。

論文審査 委員氏名	主 査		副 査	

年 月 日

論文題目変更願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

申請者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____ 印

届け出ている

論文題目 _____

変更後の

論文題目 _____

※主指導教員・副指導教員の了承を得て提出してください。

論文審査 委員氏名	主指導教員		副指導教員	

年 月 日

農学専攻長 殿

学生番号
 コース名
 氏 名

学会等における発表報告届

下記のとおり発表をしたので、提出します。

記

発表学会等	
開催期間 開催地	(開催期間) (開催地)
題 目	
要 旨 (右欄では不足 する場合には、 「 <input type="checkbox"/> 別紙あり」 に <input checked="" type="checkbox"/> を入れる)	<input type="checkbox"/> 別紙あり
主指導教員	氏 名

- 備考：1. 発表した大会プログラムあるいは学会が発表を受け付けた文書等の写しを必ず添付すること。
2. 一報毎に届出のこと。
3. 要旨を別紙で提出する場合には、タイトル、著者（筆頭著者もしくは責任著者のみ）を記載すること
4. 主指導教員の下承を得て提出してください。

農学専攻長 殿

学生番号
 コース名
 氏 名

学会等における発表報告一覧

下記のとおり在学期間中の学会等における発表について報告します。

記

発 表 学 会 等	開 催 時 期	題 目

主指導教員 _____

※主指導教員の下承を得て提出してください。

提出期限（4月入学者）：令和6年9月20日（金）

提出期限（10月入学者）：令和7年3月31日（月）

年 月 日

CoRE プログラム履修願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

願出者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____

下記の期間中、受入大学において CoRE（修士課程国際共同指導）プログラムを履修したいので、ご承認願います。

記

1. 受入大学 _____

2. 受入大学側指導教員（予定） _____

3. 派遣期間 _____年____月 ~ _____年____月

※主指導教員の下承を得てから提出すること。

提出期限（4月入学者）：令和6年4月19日（金）

提出期限（10月入学者）：令和6年10月11日（金）

年 月 日

ダブルディグリープログラム履修願

茨城大学大学院農学研究科長 殿

願出者

茨城大学大学院農学研究科

農学専攻 _____ コース

学生番号 _____

氏 名 _____

下記の期間中、受入大学においてダブルディグリープログラムを履修したいので、ご承認願います。

記

1. 受入大学 _____

2. 受入大学側指導教員（予定） _____

3. 派遣期間 _____年____月 ～ _____年____月

※主指導教員の下承を得てから提出すること。

茨城大学大学院農学研究科

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

TEL : 029-888-8522

FAX : 029-888-8545

H P : <https://www.agr.ibaraki.ac.jp/graduate/>